

雨とばした庶民の息吹！

第三十五回「池島ふれあいまつり」に数千人

雨模様の空を吹き飛ばすように、至る所に出会いと交流の花が咲き、庶民の息吹がみなぎりました。毎秋恒例の区内最大級地域イベント「池島ふれあいまつり」が今年も十一月二十三日（月祝）に池島公園で催され、数千人で賑わいました。主催は池島地域活動協議会と池島地区社会福祉協議会と海の子学園池島寮。日赤奉仕団地域振興会池島連合と港区民生委員協議会女性部会と池島小学校と同校PTAが協賛。三十五回目。

至る所に出会いと交流、地域あげ準備した舞台発表・模擬店・遊び

★「絆が強いもの」とい副実行委員長

午前十時、福寿軍治・実行委員会委員長の開会宣言に続いて、大きな声援と拍手の中、「高校生が皆をまとめるながら練習しました。十八年前

から引き継がれる踊りです」と紹介されて登壇

した児童養護施設「海の子学園 池島寮」の子供

たちが元気一杯の「南中ソーラン」を披露。開

会あいさつに立った平岡敏治・実行委員会副委

員長（池島地域活動協議会会長は「昭和五十八

年「お年寄りから子供まで誰もが大事にされる

まちづくり」を目指して池島小で始まり、会場

をこの公園に移し、内容を充実させながら手づ

「オープニングを飾った海の子学園 池島寮の元気な『南中ソーラン』(上)と、開会挨拶で『地域の熱意』を強調する平岡・副実行委員長(下)」



また井上悦治・池島小学校校長(実行委員会参事)は「実行委員会では早い時期から取り組まれ、今日も早朝から準備され、心から感謝している。我が校児童も授業の一環としてステージに立つ。練習の成果を発揮しての頑張りに拍手で応えてやってほしい」とこの催しの特徴である学習発表を兼ねる点に触れた上で、「これからの季節は陽が早く落ちるので、暗くなる前に家や寮へ帰るよう声をかけてやってほしい」と地域の見守りを呼びかけました。

★歌や踊りが次々と登場

このあと舞台は地元の男女四人によるユーモ



んの熱意の賜物」とこの催しの歴史に触れた上で、「今年も実行委員会を兼ね、小学校の学習発表や住民参加のステージ発表、初のミニ地下鉄などの遊びコーナー、バザーや飲食模擬店など多彩な催しを準備したので一口楽しんでほしい。皆さんのパワーで天気も持つだろう。この催しを通じて人と人のふれあいがさらに深まり、地域の絆が一層強まるよう願っている」と盛会への期待を表明しました。

★「児童の頑張りに拍手を」と池島小学校長

→可愛い演技に声援が飛んだ池島保育園・園児の『ソーラン節』(上)と、元気な声が響き渡った池島小学校一・二年生の群読(下)

「音色が美しかった池島小学校三・四年生の『もののけ姫』合奏(上)と、迫力があつた池島小学校五・六年生の『情熱大陸』合奏(下)」



アと温かさ・爽やかさ溢れる司会で進行。午後三時半ごろまで、池島保育園児の歌と踊り、池島小児童の学習発表、池島小生涯学習ルーム「ミルキーウェイ&スターダスターズ」のコーラス築港の障害者作業所「あゆみ作業所」の歌と踊り、地元の少年少女空手教室「佐空会」の演武、太鼓サークル「土魂鼓」の和太鼓演奏、ピエロ(湯浅博さん)の大道芸、大阪エフエッサチアグループ「b.t.」のチャダンス、スティールバンド「シヨートスティック」の演奏などが次々と登場。午後一時ごろから小雨がぱらつきましたが、雨天会場である池島小講堂へ移動することもない

←音楽に合わせて楽しくに踊るあゆみ作業所の仲間たち①と、『ふるさと』などを美しく歌い上げたミルキーウェイ&スターダスターズ②



く、最後は「旅行券」「お肉券」「お米」などが当たる「ラッキー抽選会」で盛り上がりました。

★園児や児童の発表に拍手

このうち「第十三回から二十年以上出演を続けています」と紹介されて登壇したのは池島保育園の園児たち。四歳児は『ごんべりごんべり』『幸せなら手をたたこ』の歌と踊りを、五歳児は『ソーラン節』の歌と踊りを、それぞれ披露。保護者や地域住民から盛大な拍手や声援を浴びると共に、西平園長から「よく頑張りましたね」と賞賛の言葉を受けてました。

また「今年、創立四十周年を迎えました」と

紹介されて登壇したのは池島小の児童たち。一年生は群読や合唱・合奏を、三・四年生は『もののけ姫』上を回して歩くなどの合唱や合奏を、五・六年生は『情熱大陸』などの合唱や合奏を、それぞれ披露。保護者や地域住民から盛んな拍手や声援を浴びると共に、井上校長から「練習の成果を発揮してよく頑張りました、どれも立派でしたよ」との労いと賞賛を受けました。これら園児や児童の舞台には、毎年このことから、カメラやビデオを向ける保護者の姿が目立ちました。

★模擬店やバザー、高齢者も子供も



→力強いばちさばきに感嘆の声が上がった「土魂鼓」の和太鼓演奏①と、子供たちの発表にカメラやビデオを向ける保護者②

←ミカンやリンゴが飛ぶように売れていた野菜・果物市①と、超安値の日用品などに押すな押すな活況を呈したバザー②



こうした舞台や舞台前広場を囲むように設置されたのは、児童福祉施設、保育所、障害者作業所、学童保育所、老人クラブ、PTA、女性会、子ども会などの地域団体による飲食や遊びや体験のコーナー。このうちバザーや模擬店、魚市、野菜市、餅つきなどの飲食「コーナー」では、立ち込める匂いや湯気の間から「おいしいよ」「おいしいよ」などの呼び声。けん玉、こま回し、ヨーヨー釣り、シャボン玉、スーパーボールすくい、ミニ地下鉄、トランプポン、金魚すくい、人形劇などの遊びコーナーには幼児らの歓声が絶えず、臺座（たいざ）つくりや木下などの体験「コナ

「安くてもうまい！」と客が途切れなかった焼きそばなどの飲食模擬店^①と、すっかり名物になった「たけのこ学童」の餅つき風景^②



―では年少世代が年配者から真剣な表情で物作りを教わり、健康相談コーナーでは血圧測定などに、ふれあい喫茶では珈琲やお菓子のサービスに、高齢者の笑顔が見られました。

★「ちゃんこ鍋」の賑わい

ぶつからないと歩けないほどの人、人、人。子供に餅を食べさせながら手を引くヤンママ。焼きそばをかきこみながら歩き回る若者グループやカップル。中央のテーブル席では我が家にいるかのようなリラックスした表情で飲食する家族つれや、穏やかな笑顔で舞台に拍手を送る老夫婦。「おー久しぶりやな〜、元氣か」「はい、

何とか頑張ってます」などと言葉を交わす恩師と教え子^③。地域のあらゆる層と世代^{せだい}が集い、至る所に出会いと交流の花が開きます。何でもありの会場はさながら「ちゃんこ鍋」。庶民の活力が、今にも泣き出しそうな曇り空と共に、テロや戦乱、貧困や災害、汚職や不正が蔓延^{まんえん}する世界の鬱屈^{うっくつ}した空気をも吹き飛ばしたように感じられました。

★「娘の踊り良かった」と母親

こうした参加者のうち、中央のテーブル席で親戚や知人数人と飲食しながら談笑していたのは佐々木康子^{やすこ}さん(三十年代)と二先在住。「今日は池島保育園年長の娘が『ソーラン節』を踊るの



→今年も幼児が夢中になったヨーヨー釣り^④と、大人も真剣な表情で加わった金魚すくい^⑤

「大きなシャボン玉に得意げな女の子^⑥と、親子に人気抜群だった初登場のミニ地下鉄^⑦



を観るのが直接の目的でしたが、しつかり元気に踊ってくれて嬉しかったです。すぐ近くで生まれ育ったので、この催しにはずっと参加してきましたが、二先にはこれまで大きな催しはないので、うらやましい気持ちもあります。とにかく安くておいしい飲食模擬店やたくさん遊びコーナーにはいつも大満足。地元の方が力を合わせて運営される姿も温かく感じます」と話していました。

★「人の変化が分かる」と三十年代夫婦

また七カ月の女兒を抱いて立ったままずっとなどを食べていた油野秀隆^{ゆのひでたか}さん(三四・妙子^{たえこ}さん(三五)夫妻は「二人とも池島生まれの池島育

ちなので、最初からずっと参加し、保育園や学校の発表にも出演し、地元の人たちが力を合わせる姿も見えました。食べ物や遊びの「コーナー」が楽しみなのはもちろんですが、毎年ここで顔を合わせる人が元気でおられることや、変化していく姿を見られるのもうれしいことです。この子が大きくなつてからもずっと一緒に参加するでしょう」と話していました。

★「発表が励みに」とコーラスメンバー

また「ミルキーウェイ&スターダスターズ」のメンバーとして美しいハーモニーで『美しいぼつのかレンダー』『ふるさと風ハーシヨン』『あわせ運べるように』の三曲を歌い終え



「こつやるんやで」と年配者が活躍した物作りコーナー。上は藁草履作り、下は木工教室

満足げな表情で和んでいたのは、代表の新堀美恵子さん(六〇)、会計の左近充智津子さん(八三)、男性代表の藪下勇さん(六八)、山形佳美さん(六十代)ら。「平成三年に池島小で生涯学習ルームが発足してから二十五年間ずっと出演しています」特に緊張はしませんが、こつして毎年発表の場があることばとても励みになります「コーラスの魅力は声を合わせることで心が一つになることです」などと話していました。

因みに同グループは海外留学経験もある音楽家一人が七年前から指導。本格的な上達が見込める上、千田の月会費(通常五千円)が『世界一安い』とネットなどで評判を呼び、遠方からも練習に。平均年齢は現在八十歳。新しい人の加入で若返りを目指しています。毎月第一・第四土曜の十七・十九時に練習していますが「二時間だけでもOK」とか。問い合わせは池島小(六五七二・四三五四)へとのことでした。

★「最後まで無事」と防犯係の男性

会場にはこつした一般来場者や舞台出演者のほか、実行委員として様々な役割をボランティアで担う人たちの姿がありました。その一人

「清潔・安全な会場の維持に活躍した実行委員。上はごみステーション、下は自転車整理



で「防犯」の腕章を付けて会場を回っていた七十年代男性は「普段は地域で防犯と防災の活動をしています。この催しではその経験を生かして町会からの依頼で十年以上、この係を続けています。大変といえは大変ですが、お役に立ててやりがいを感じます。とにかく最後まで無事に運んでほしいですね」。

同じく「防犯」の腕章を付け、公園を出入りする人たちに「車通りますよ」などと声をかけていた男性は「二カ月ほど前から何度か打ち合わせがあり、今朝は八時から準備。終わってからもし一時間は後片付け。確かに労力は伴いますが、皆さんに喜んで頂けるので、しんど

いとは思いません」と話していました。

★「スタッフ温かい」と舞台係の若者

同じく実行委員のうち「スージー」の腕章をつけて立つたまま休憩していたのは赤澤圭亮さん（二九）と北嶋千蒼さん（二七）共に京都在住。関西電力本店（北区）から四人でボランティア志願しました。「初めての経験ですが、人の多さにもずびつくり。とても楽しい雰囲気の中であることが分かりました。それにスタッフの方たちがみな良い人ばかりで、温かな気持ちになりました」「いつもより早い六時に起きて阪急電車に乗り、ここで八時に集合しました。舞台・出演者の楽器を運んだり、体が不自由な方の登壇・降壇の補助をしたりしていますが、皆さんのお役に立てて嬉しいです。来年も参加するつもりです」などと話していました。

★「心を合わせる大切さ」

地域のふれあいを目的に、あらゆる層が一年がかりで準備を進め、当日でも音響・進行・案内・清掃・防犯・自転車整理など細部にわたって任務を分担し、三十数年という長期に亘って続けられてきた「池島ふれあいまつり」。今、「自

← 出会いと交流の花が開き、心を合わせることの大切さが示された「池島ふれあいまつり」



分さえ良ければ」という個人主義が幅を利かす中、失われつつある「心を合わせること」の大切さを地域の大人たちが身を以て青少年に示し続けている——活気の中にもそんなことも見えてくる催しでした。

★ 求められる地域活動の検証

その一方で、一〇二三年度から港区の全小学校区で「地域活動協議会」という新たな組織が発足し、それまで大阪市から各団体へ個別に下ろされていた補助金を、同年度からはその組織が区役所からまとめて受け取り、事業ごとに配分する形となり、この催しでもそのやり方が適用されていますが、「予算面でも格段に厳しくなった」と実行委員の多くが今後の運営に不安を覗かせています。地域活動の先頭に立つ人たちのこうした声を真剣に受け止め、その不安を解消し、意欲を支援する方向で、今後の地域活動の在り方が検証改善されることが求められます。

介護タクシー

車イスのない、歩行困難な方もご利用OK!

お問い合わせ・予約は
24時間受付
年中無休

CARE-TAXI
パートナー

詳しいパンフレットおくります
＜担当カジョウ＞

介護タクシー パートナー

携帯 080-3774-7844
FAX 06-6577-9301

被災地農民を支援します。

反原発の声をあげよう!

ご協力下さる方はご連絡下さい

三里塚産直野菜の会

磯路2-3-9(三社神社そば) TEL.6572-0130

港区の取り組みなど論議

区政会議新メンバーで初の会合



→ 港区の取り組みや基本計画について意見が交わされた、新メンバーによる初の港区区政会議
議 十一月十二日夜、港区役所

区政に区民の声を反映させよう。十一月十二日(木)夜に港区役所で今年度第一回の港区区政会議が開かれ、港区の取り組みや基本計画について意見が交わされました。委員四十九人地域団体推薦三十人と公募十九人のうち三十二人が出席、区職員一千数人が同席。

冒頭、田端尚伸区長が「新メンバーで初の会合。活発な議論を」と呼びかけ。最初の議案である議長・副議長選出では、委員間の互選で、議長には武智虎義委員(市岡地域活動協議会代表、福祉部会長)が、副議長には松尾フサ子委員(港区地域女性団体協議会代表)が、それぞれ選ばれました。

◆「区民主体のまちづくり」進む

このあとも二つの中心議題「港区の取り組み」について区長が画像を使って説明。この中で区長は「区民主体のまちづくり」が進んでいる例として、①一昨年春に各小学校下で結成された地域活動協議会(地活協)が全校下で防災・防犯・福祉のプランを作り上げ、避難所開設訓練も全校下で実施した②一昨年からは港区民まつりが実行委員会運営となり、開催時期が夏から秋へ、

←議長・副議長に選出された(右から)武智虎義委員・松尾フサ子委員(上)と、あいさつする田端尚伸・港区長と区役所の各担当課長ら(下)



参加団体が二十一から四十八へ、固定したプログラムから参加しやすいプログラムへ、隔年の運動会から毎年のみなりんピックへ、プロの夜店から地活協の模擬店へーなどの大幅な見直しが見え出した③各地活協が桜並木の維持管理や地域の防災備蓄の増強などのため広報配布の引き受けなどで自主財源の確保に取り組んでいるーなどを強調。また「訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり」については、築港・天保山にぎわいまちづくり実行委員会が天保山まつりの実施などで築港地域の活性化に取り組んでいるが、恒常的・全体的なにぎわいには至っていない

で、観光客の受け入れ環境の整備や情報発信などを強める必要があることを、さらに「弁天町駅周辺のこれからまちづくり」については、弁天町駅前に大阪みなと中央病院と交流会館を建設する区画整理記念事業の検討ワーキングが進んでいることや、それぞれ強調しました。

◆上半期は「市民通」進捗

「二〇目の中心議題」平成二十七年年度港区運営方針の上半期（四〜八月）の進捗状況^{しんぱくじょうき}については川上・総務政策担当課長が説明。この中で同課長は「区民主体のまちづくり」「安全・安心・快適なまちづくり」「健やかにつぎつぎと暮らせるまちづくり」「子育て世代が魅力を感じるまちづくり」「訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり」「自律した自治体型の区政運営」の六課題について「一部未達成見込みもあるが全体として予定通り進捗している」とを強調しました。

このあと、直近の三部会の議論内容は、各部長が報告。このうち「子ども青少年部会」では「英語交流事業は継続が望ましい」と区独自の事業として継続・充実させていきたいなどの質疑応答があったことが、「福祉部会」では「地

域見守り」コーディネーターの役割は何か、様々な生活課題の相談やちょっとした困りごとの支援を行なっている」などの質疑応答があったことが、「防災・防犯部会」では「小学校の備蓄物資をもっと増やせないか」「新たな備蓄計画の策定に向けて検討している」などの質疑応答があったことが、それぞれ報告されました。

◆「戦後七十年事業」を報告

会合ではこの他、①弁天町駅前土地区画整理記念事業の検討ワーキングでは「十二名が全四回中一回の会合を終え、」フラットな（平坦で区切りのない）ホールに「歴史展示は最小スペースで効果的に」運営面では区民による企画やチェックの体制を」などの意見が出ている②戦後七十年・区政九十周年事業として資料の収集記録整理、戦争体験者の映像記録、冊子・DVD作成などが今年七月から来年三月にかけて進んでいる③学校選択制が昨年度から実施されているが、今年度の校区外の選択率は小学校二・五割、中学校四・五割と昨年度より減った④現在十一学級以下の磯路・八幡屋・築港・南市岡・港晴池島の六小中学校は、「学校配置の適正化指針」では

統合等の対象になっている」などが馬場副区長から報告されました。

◆「人口をいやす」など議論

以上の説明や報告の後には意見表明や質疑応答の時間が設けられ、委員と区役所担当部署との間などで主に次のようなやり取りがありました（内容・順序は本紙で抜粋・調整）。

「港区の人口減少の原因をどう捉えているか」（^{おがた}尾万委員）→特に把握できてはいませんが、関連する事実としては①子育て層の減少が目立つ②東日本大震災後の遷居部の減少が目立つ③かつて人口増につながった大型共同住宅の建設計画が今はない」などがある（総務政策担当課長）

「人口を増やすというが、昼間が夜間が」（^{すみ}委員）→「もちろん夜間人口が重要だが、港区にお金を落としてもらえらる昼間人口も大事。両方を増やしていけたらいいですね」（区長）

「年間通じての人口増につながる区独自の取り組みを」（角委員）「人口増へ具体的・物質的・生動的・教育的な支援を」（^{やた}矢田委員）→「教育面では中一ギャップ（進学時の戸惑い・不安）の解消や不登校の減少に向けた様々な取り組みを進め

ている。また弁天町駅前十地区画整理記念事業では世代間交流と併せて病院とも連携した地域包括ケアシステムのバックアップ機能の検討が進んでいる。税の公平性の観点から個人給付型の支援は難しいが、間接的環境づくり的な支援はこれからも考えていきたい」(区長)

「天保山まつりの賑わいやクルーズ船のひんばんな寄港で外国人と接する機会が増えている。

これをさらなる賑わいへ結び付ける取り組みを」

(近江委員) ↓ 「大阪商工会議所と連携してエリアの地図の外国語表記を実施している他、英語カフェ事業を継続し、子供たちが外国人と話す力を付けられるようにしていきたい」(区長)

「若い人に港区を知ってもらい、来てもらえるような取り組みを」(尾万委員) 「人口を増やすために婚活イベントのようなことをしてはどうか」(角委員) ↓ 「築港の六角形(幸せ)につながるダイヤモンド型の地形をアピールして、幸せ伝説につなげていくなどの発想を持って検討したい」(区長)

「『大阪都市魅力創造戦略』の重点エリアに位置付けられている築港地域の『バウンド』(再活

←意見を述べる委員①と市会議員②



性化)を通して港区全体が活性化され、人口が増えるよう皆さんと力を合わせたい」(西市議)

「議論を聴いていて同一税金・同一施策の観点から港区だけの街づくりには限界を感じるが、その中でできるだけ区に権限を移すよう大阪市は取り組んでおり、その一つがこの区政会議。活発な議論に期待を持っている」(藤田市議)

「紙の資料が多いのは仕方ないのか。用語は平易な表現に」(藤田市議) 「前もって郵送された資料と並口配られる資料が一目瞭然で区別できるよう色分けなどできないか」(矢田委員) ↓ 「討議内容が多いので資料を減らすのは難しいが、できるだけ絞り、また用語も平易にするよう努めたい」(総政政策担当課長)

◆ 「疲れたが有意義だったと委員

終了後、参加した委員の一人(こども青少年部会)は「議論が多岐に亘り、資料も多く、今日はもっぱら聴いているだけでしたが、とても疲れました。それでも、普段は自分たちの地域だけで活動しているので、他の地域との違いなどが分かり、大変有意義でした。これからは自分の意見も出していこうと思っていますが、区全体の立場で意見を述べるのはなかなか難しいし、議事録をとられると思うと、どうしても慎重になってしまいますね」と話していました。

◆ 「委員は提案もって」傍聴者

また傍聴者の一人は「いつもながら委員の熱心な議論、区役所の誠実な対応が印象的でした。ただ委員の発言に初歩的な質問や専ら区役所たいせつに対応を尋ねるような声、思い付きのような意見もあるのが気になりました。区民を代表して参加する以上、少なくとも区政方針の基本はつかんだ上で、所属する部会の分野については一定の知識と自分なりの見解や提案をもって臨んでほしい。仕事や家事を抱えながらの活動は大変だと思いますが…」と話していました。

築港と近隣の医療を守ろう

みなと中央病院の移転うけ意見交換



→大阪みなと中央病院移転決定を受け「築港と近隣の医療を守ろう」と開かれた意見交換会
 〓十一月二十九日、天保山第五コーポ集会所

「築港と近隣の医療を守ろう!」。大阪みなと中央病院（旧・大阪船員保険病院、築港二丁目）の弁天町駅前への移転決定を受けての「意見交換会」が十一月二十九日（日）午後、天保山第五コーポ集会所で開かれ、築港住民を中心に約三十人が参加しました。「築港エリアに総合病院の存続を求める会」（山田博之代表、以下「求める会」）が主催。

◆区画整理記念事業の中で移転させる

会合では山田代表が、日常的に築港住民の「命の綱」である同病院が、区画整理記念事業（港区の戦後の区画整理を記念する施設を建てる事業）の計画策定の中で、二〇一九年度に同事業用地（弁天町駅前）へ移転することが決められるまでの経過を、大要次のように報告しました。

①二〇二三年秋、同病院の前身である大阪船員保険病院（一九五〇年築）が老朽化を理由に市岡商業高校の跡地（弁天二丁目）への移転を計画しているという噂が築港一帯に流れた。

②これを受けて同年十月、天保山第五コーポ（築港二丁目）の住民有志で「求める会」を結成し、同病院の別府院長に「建て替える築港工

リアで」と求める署名活動を始め、その中で集まった五三筆の要望署名を一四年三月末までに同院長へ提出した。

③その一方で同年四月、同病院は「大阪みなと中央病院」（独立行政法人 地域医療機能推進機構グループ）として再スタートした。

④これを受けて同年七月、同会は同院長らに面会。院長は「二〇一五年中に耐震診断を実施し、大阪府知事の指示に従う」と答えた。

⑤ところがその頃から同病院は「建物の老朽化」を理由に同事業用地への移転を港区役所に働きかけていた。

⑥これを受けて港区役所は病院側と水面下で話し合いを重ね、十一月に合意、同病院は同事業用地へ移転することとなり、跡地はマンション用地として売却することになった。

⑦これを受けて田端港区長は十一月、地域振興会築港連合町会（今村末吉会長）の会合で同計画案を町会長らに説明したが、後継病院の誘致に言及しなかったため不安の声があがった。

⑧こうした声を受けて今年一月、「求める会」は「緊急懇談会」を築港高野山で開催し、約五

十人が参加、築港に拠点病院の存続を求めようとの運動方針を確認した。

⑩その一方で区画整理記念事業「計画案」についての区民説明会が区役所主催で開催され、その中で、築港の医療不安を訴える声や病院誘致を求める声が続々と出されたが、「大阪府保健医療計画によって市内の病床数に制限がある」「水戸消防署など築港の救急体制は確保されている」などを盾に、誘致は不可能とされた。

⑪しかし同月の区政会議では「計画案」そのものには「賛同」が示されたものの「行政として同病院移転後の築港地域の受診機会の確保に努める」という「付帯事項」が採択され、同月末の大阪市戦略会議での「計画案」決定、さらに二〇二〇年市議会での「予算」決定の際にもこの内容が「確認事項」とされた。

⑫以後、「求める会」ではこの「確認事項」を前面に掲げ、同病院の転出はやむを得ないとしても、その後の築港地域の日常的な診療機会の確保を行政（市役所・区役所・議員）に働きかけることを主眼に運動してきた。

⑬その中で「求める会」は五月と七月、「築港

エリアの受診機会の確保に関する陳願書」に累計一〇三六筆（一次分八〇八筆、一次分二二八筆）の署名を添え、港区医師会に提出したが、同会会長の姿勢は「今の港区医師会にそのような力はない」というものだった。

⑬また九月一日には「求める会」が同病院の森院長ら三名と話し合いを持ったが、その際の際の要望に対する回答（九月二十四日）は「移転は二〇一九年四月前後と考えている」「跡地に分院を開設するのは難しいが、築港地域に開業医が増えない場合、跡地売却の際にはマンシヨンのワンフロアに医療施設を入れることを条件にする」とは考えている「耐震診断結果は今年十二月に国から公表される」などに留まった。

◆会の名称を「求める会」に

こうした経過説明のあと、山田代表は「今年一〜九月の港区西地域（田中・八幡屋・池島・築港・海岸通・港晴）の同病院の新入院患者（実患者）合計は二〇一九年と同じく同期間・同地域の外来延患者合計は四万三三六一人」などを示し、「これほど同病院への地域依存度が高い中で、移転後の穴埋めを講じないというのは絶対に認められない」と強調しました。

その上で今後の活動方針として、①「求める会」の名称を「築港と近隣の医療を守る会」（以下「守る会」）に変更する②新年早々に区役所との話し合い（協議）を申し入れるなどを提案。

若干の質疑応答の後、拍手で承認。「守る会」の代表幹事には互選で「求める会」の山田代表が就きました。

◆市長・区長は確認する義務

終了後、山田代表幹事は「区画整理記念事業計画案には『築港地域における日常的な受診機会の確保について区役所として多くの住民の不安の声をふまえて……病院移転後の受診機会の確保に努める』との重要な確認事項が記されており、橋下市長と田端区長にはこれを公然とする義務があります。一月市議会で九月月打ちしましたが、大阪府など中央病院と港区医師会への働きかけはこれまで進んだでしょうか。区役所は『現状と展望』を速やかに説明し、住民の切実な願いに真摯に応えてほしい。そのために私たちも、今日を機に働きかけをさらに強めていきたいと思っています」と話していました。

楽しく心身チェック

健康フェスタ 今年も盛況



→ 楽しみながら心身をチェックできる企画が溢れた「港区健康フェスタ」が十一月七日、港区民センターで（写真は賑わうホール）

「のぼる健康寿命！」。毎秋恒例の「港区健康フェスタ」が十一月七日（土）午後、港区民センターで開催され、約千人の来場者で賑わいました。主催は港区医師会・港区歯科医師会・港区薬剤師会・港区役所・港区保健福祉センターなどから成る「健康フェスタ2015実行委員会」。地域・団体・企業を主体とした企画運営で二十数年の歴史を持っています。

◆「楽しみながら考えて」区長・区長

午後一時半からの開会式では、西山和夫実行委員長（港区医師会会長）が「楽しみながら健康について考えて」と呼びかけ、田端尚伸港区長が「港区では癌^{がん}死^し率が高^たく、健康寿命も市平均より短い。にもかかわらず特定健診^{がん}や癌^{がん}



→「楽しみながら健康について考えて」と開会式で呼びかける西山実行委員長（上）と田端区長（下）

「港区医師会の「健康相談」で医師からアドバイスを受ける来場者（上）と、港区歯科医師会の「歯科相談」で口内を調べてもらう男性（下）」



検診の受診率は市平均より低い。そんな中で十一月を健康月間として港区歯科医師会など十七団体・企業が無料歯科検診など二十四の事業に取り組んでいる」と強調しました。

このあと午後四時ごろまで、ホールやロビーや会議室では「旬あてクイズ」「体脂肪測定」「バランス能力テスト」「肺年齢測定」「アルコールパッチテスト」「結核検診レントゲン撮影」「健康相談」「歯科相談」「バランス年齢チェック」「フッ素塗布」「ブラッシング指導」「血管年齢測定」「足趾力測定」「骨密度測定」などが、舞台では「キッズダンス」「ラジオ体操」などが、スタジオ

←港区保健福祉センターの「足趾力測定」を受ける男性①と、みなと生協診療所の「骨密度測定」でアドバイスを受ける女性②



ではあいつべ体操「シニア健康3カ体操」などが行なわれ、それぞれが大変な活況。真剣に耳を傾けたり、質問したり、メモを取ったり、実際に体験したりする姿が至る所に見られました。

◆「気楽に相談できる」と七十代女性

来場者のうち「歯科相談」コーナーで港区歯科医師会の医師から真剣な表情で助言を受けていた藤本千代子さん(七八)は「口が思うように開かなくなったので心配になり、相談しました。今日は原因を調べる設備がないので、次にかかりつけ医へ行く日を待たずに受診し、よく調べてもらうよう助言され、少

し安心しました。この催しにはほとんど毎回来ていますが、何でも気楽に相談できる雰囲気がいいですね。健康のために、食生活では「レステロールが高くないよう油ものを控えることや、減塩を心がけています。また足腰が衰えないよう、毎日午前と午後近くの入舟公園を一周ずつ歩いています」と話していました。

◆「フッ素塗布は助かる」と三十歳男性

また「階廊下で、「おなか元気教室」(南大阪やクルト販売株)に参加中の家族を待つていた城谷裕一さん(三七)は「娘(六歳)がキッズダンスに出たので、それを見てやる目



→港区歯科医師会の「フッ素塗布」を受ける母子①と、港区医師会などの「みなと卒煙塾」で肺年齢の測定を受ける女性②

←健康づくり推進協議会のぞみ会会員から棒体操を勧められる女性①と、食生活改善推進員協議会(桜菜会)の野菜ゲームをする女性②



的もあつて、妻や息子(五歳)と来ました。一回目の参加ですが、楽しみながら健康のことを考えさせてくれる素晴らしいイベントですね。会社勤めで忙しく、健康のために何かする余裕はあまりありませんが、野菜を多く摂ることや、できるだけ歩くことなどを心がけています。子供たちには歯磨きや早寝早起きなど正しい生活習慣を身に着けさせてやるよう妻と力を合わせています。これから娘と息子にフッ素塗布をしてもらいに行きますが、無料なので本当に助かります」と話し、戻って来た家族と一緒にフッ素塗布会場へ向かいました。

力合わせ安心社会を

「健康まつり」多彩な企画で賑わう



→ 健康的な企画に参加者の笑顔が溢れた「第二十九回健康まつり」は十月二十五日、磯路中央公園で(写真は「港健康教室歌体操」の歌体操)

「区民の健康生活を応援しよう」「力を合わせて安心の医療 福祉を」。十月二十五日(日)、磯路中央公園で毎秋恒例の「健康まつり」が催され、秋晴れの下で十時から十五時まで多くの区民が訪れ、健康をテーマにした多彩な催しを楽しみました。大阪きづがわ医療福祉生活協同組合・健康まつり実行委員会が主催。一千九回目。

◆「健康と平和」をテーマに

開会式では西原忠弘^{ただひろ}実行委員長が「今年のテーマは『つなげよう健康と平和の輪!』。戦争法やダブル選挙のことも考え合いながら、工夫を凝らした催しを楽しんで」と開会宣言。市岡中吹奏楽部がファンファーレを響かせ、『ゲバゲバ90分』『花燃ゆ』など八曲を演奏。別所吉政^{よしかさ}・



→「組合を大きく」と呼びかける別所理事長(上)と、「健康と平和」を強調する西原実行委員長(下)

←開会を飾った市岡中学校吹奏楽部(上)と、『花笠音頭』などの民謡で盛り上げた好誼会(下)



大阪きづがわ医療福祉生活協同組合理事長が「この組合には、千三百人が加入しているが、願いは『健康で長生き』。私たちの強みは専門職のサポートを得ながら組合員自らが健康づくりをするところ。組合員を増やしてより大きな安心をつくらう」と呼びかけました。

◆舞台で演芸、バザーや模擬店も

このあと舞台では同組合内のサークルなどによる「民謡」「詩吟」「太極拳」「新舞踊」「合唱」「民踊」などが次々と登場し、盛んな拍手を浴びていました。また会場を囲むように学童保育 福祉などの諸団体による「ばら寿司」「かやく飯」「唐揚げ」などの飲食模擬店や、「手づくり雑貨」など

←柔らかな動きで和ませた早朝太極拳の会①と

『花は咲く』で感動させた『パッチワーク』②



のフリーマーケット・バザーが並び、金券(五千円・百円)による購入を呼びかけていました。

◆ 人気の健康チェック

また平和・救援などの諸団体による「医療介護相談」「健康チェック」「子どもの昔遊び」「防災」「戦争展」などのコーナーにも関心が集まり、中でも毎年人気の「健康チェック」には開場と同時に来場者が訪れては血圧・体脂肪率などを測定してもらってアドバイスを受けたり減塩みそ汁を試飲したりする光景が見られました。

まつりの最後には抽選会が行なわれ、大きな盛り上げのうちに幕を閉じました。

◆ 「医者いらずで国に奉仕」と七十代女性

参加者のうち、友人の八十歳男性と健康チェックを受け、減塩みそ汁を試飲していた谷田敏子さん(七二)港晴Ⅱは「毎回健康チェックのために来ています。血圧は二二・六九で正常でした。生活習慣病に罹らないため、旬の物を中心に向でもまんべんなく食べるよつ心掛け、毎朝の歩きは十八年になります。医者いらず薬いらずで医療費ゼロ。国に奉仕しています(笑)。このおまつりは楽しみながら健康に心向けさせてくれる素晴らしい催しですね」。その横で友人は「血圧がちよつと高かったけど、健康には気を付けてる。毎朝四時に起きてラジオ体操と乾布摩擦。ほかに腕立て伏せ五十回、腹

としこ

たにだ

敏子さん(七二)港晴Ⅱは「毎回健康チェックのために来ています。血圧は二二・六九で正常でした。生活習慣病に罹らないため、旬の物を中心に向でもまんべんなく食べるよつ心掛け、毎朝の歩きは十八年になります。医者いらず薬いらずで医療費ゼロ。国に奉仕しています(笑)。このおまつりは楽しみながら健康に心向けさせてくれる素晴らしい催しですね」。その

かか

しゅん

横で友人は「血圧がちよつと高かったけど、健康には気を付けてる。毎朝四時に起きてラジオ体操と乾布摩擦。ほかに腕立て伏せ五十回、腹

かんぶ

まきつ

体操と乾布摩擦。ほかに腕立て伏せ五十回、腹

かんぶ

まきつ

横で友人は「血圧がちよつと高かったけど、健康には気を付けてる。毎朝四時に起きてラジオ体操と乾布摩擦。ほかに腕立て伏せ五十回、腹

かんぶ

まきつ

健康には気を付けてる。毎朝四時に起きてラジオ体操と乾布摩擦。ほかに腕立て伏せ五十回、腹

かんぶ

まきつ

健康には気を付けてる。毎朝四時に起きてラジオ体操と乾布摩擦。ほかに腕立て伏せ五十回、腹

かんぶ

まきつ

健康には気を付けてる。毎朝四時に起きてラジオ体操と乾布摩擦。ほかに腕立て伏せ五十回、腹

かんぶ

まきつ

健康には気を付けてる。毎朝四時に起きてラジオ体操と乾布摩擦。ほかに腕立て伏せ五十回、腹

かんぶ

まきつ

健康には気を付けてる。毎朝四時に起きてラジオ体操と乾布摩擦。ほかに腕立て伏せ五十回、腹

かんぶ

まきつ

健康には気を付けてる。毎朝四時に起きてラジオ体操と乾布摩擦。ほかに腕立て伏せ五十回、腹

かんぶ

まきつ

健康には気を付けてる。毎朝四時に起きてラジオ体操と乾布摩擦。ほかに腕立て伏せ五十回、腹

かんぶ

まきつ

健康には気を付けてる。毎朝四時に起きてラジオ体操と乾布摩擦。ほかに腕立て伏せ五十回、腹

かんぶ

まきつ

←賑わう模擬店やバザー。上は大阪きつがわ医療生協八幡屋支部のホットドック販売、下は港生活と健康を守る会のホットコーヒー販売



筋八十回、スクワット百回(朝八十回十夕方十回も毎日続けてるんや」と話していました。

◆ 「食生活に気を付けてる」と三十代女性

また夫・良平さん(三二)と長女・泉織ちゃん(二二)と一緒に会場を回っていた吉武智香子さん(三二)市岡Ⅱは「医療生協で週二、パートで働いている関係で初めて参加しましたが、安い食べ物や色々なコーナーを楽しむことができました。会社勤めの主人も私も忙しい毎日ですが、食生活ではカロリーやバランスに気を付け、私は毎朝一二十分走るなどして健康維持に努めています」と話していました。

子供らに平和な未来を

「港のつどい」で先生ら訴え



→平和や教育の問題を考え合う場として開かれた「港のつどい」(写真は劇団「きゅっ」の平和コント)＝十月二十三日、港区民センター

「つながろう！平和のために！守ろう！子どもの未来を！」を合言葉に港・大正・西区の幼小・中教職員や地域の人々が交流する毎秋恒例イベント「港のつどい」が今年も十月二十三日(金夜、港区民センター)で開かれました。四十八回目。今年のテーマは「今こそ伝えたい平和の大切さ」。先生の集まりである「大阪市学校園教職員組合港支部」や学童保育所の集まりである「港西学童保育連絡会」などの諸団体から成る実行委員会が主催。

◆戦争法や教科書問題に警鐘

つどいでは浜口徹実行委員長(大阪市学校園教職員組合港支部長)が挨拶に立ち、「地域の人たちと教育や平和の問題を考え合う場として毎年この催しを開いている。『教える子を再び戦場へ送るな』と反対してきた戦争法が强行採決され、大阪市では太平洋戦争を美化し安倍首相の顔写真を何枚も掲載する育鵬社の中学歴史・公民教科書が採択され、大阪府の一人当たり教育費は全国最低クラス。こうした問題を今日はよく話そう、きこう、行動を強める場にしていこう」と呼びかけました。

「戦争法や教科書問題など子供をめぐる危機的な状況に警鐘を発し、「一緒に考え、行動していこう」と呼びかける浜口徹・実行委員長



◆愛と平和のメッセージソング

このあとメーン舞台では「劇と歌で綴る戦争の本来の姿」と題してフォークバンドによる演奏と劇団による「コント」が上演されました。

このうちミックスサウンド「こみやま&こだ」は、高校生だった河島英五も参加した東大阪の手づくり音楽祭で知り合い一九八〇年結成。東大阪にナターシャセブンを呼ぶ活動を通してフィールドフォークに共鳴。ナターシャセブンやフォークス笠木透ナンバーを中心に歌っていました。昨年末に七十七歳で死去した笠木さんのメッセージソングを広めようと、現在、その

曲起しに注力。この日はそのナンバーから愛と平和への願いに溢れた『海に向かつて』『特攻花』『カタクリの花』『ひとつぶの涙』などを巧みなギター伴奏で披露。最後は会場全体での『私の子供達へ』『あなたが夜明けをつげる子どもたち』の唱和を爽やかにリードしました。

◆戦争法を笑いで「廃止」

続いて登場したのは「憲法九条の会 西区」の五年五月結成から誕生した劇団「きゅう」。一本書のコント『集団的自衛権と後方支援の巻』では、戦争法が成立して自衛隊志願者がなくなっただことから六十五歳以上の年寄者が強制召集され、「後方支援」活動の中、正当防衛で人を殺した隊員らが捕まるが、捕虜にも該当せず、結局「殺人及び器物損壊罪」で裁かれる—という近未来スリラー。国会審議中に話題になった「戦争行きたくねえ」「利己的だ」などの会話や、「♪暗闇の大阪で立ち上がった年寄者」と呼びかける『大阪フブソディ』の替え歌『立ち上がった年寄者の歌』が愉快でした。

一本書の『戦争絶滅受け合い法案の巻』は、数の力で十法案まとめて強行採決を狙った安倍

愛と平和のメッセージソングで魅了した「とみやま&つだ」⑤と、手づくり品などでにぎわう地域団体のフリーマーケット⑥



総理だったが、その中へ何者かによって密かに「戦争絶滅受け合い法案」が滑り込まれ成立。いざ集団的自衛権行使に至った時、最初に動員されたのは法成立に加担した大臣・議員とその親族だった—というSF怪談。安倍総理が戦地へ行かされる場面での台詞「おなが痛いから無理です」「審議やり直してくれ」や、「♪安倍さん安倍さんおかしいよ」で始まる『お祭のマンボ』の替え歌が痛快でした。

◆府立高の存続求める署名やバザーも

このほか会場では「すべての子どもたちの『学び権利』の保障を—」この呼びかけ文で「維

新府政のもとで作られた府立学校条例の撤廃」「(廃校の必要がない) 西淀川高校・能勢高校・池田北高校・咲洲高校の存続」を大阪府知事と大阪府教育長に求める署名が取り組まれると共に、各職場・地域団体によるフリーマーケットやバザーも開かれ、手づくりクッキー・ケーキや手づくり小物・衣服など工夫を凝らした品々が次々と売られていました。

◆「子供の将来心配」と学童クラブ指導員

参加者のうち、ありんこ学童クラブ(弁太)の指導員として働く中馬徹さん(二八)は「歌も劇も良かったです。劇は笑いながら戦争法の危険性が分かりやすく伝わってきました。六・七年前に住む江区で指導員になり、ありんこでは一年目。毎日の放課後の集団生活や運動会、クリスマスなど季節の行事に忙しく取り組みながら、子供たちの成長を感じられるのが楽しいです。その子供たちが大きくなった時にどんな社会になっているか気になりますが、今日の劇にもあったように、皆が平和で安心して生きていける社会になるよう、しっかりと声を上げていきたいと思います」と話していました。

無実の運動家の解放を！

獄中四十年 星野文昭さん絵画展に反響



→「民衆のために闘い、無実の罪で獄中生活を送る星野さんの解放を！」と開かれた絵画展Ⅱ
十月、弁天町ORC200生涯学習センター

「民衆のために闘い、無実の罪で四十年もの獄中生活を送る星野文昭さんを取り戻そう！」と十月十三・二十五日、弁天町ORC200

生涯学習センターで「星野文昭 絵画展」が開かれ、多くの人たちが鑑賞しました。港区の労働者から成る「星野文昭絵画展・港実行委員会」が主催、「大阪・星野文昭さんを取り戻す会」と「婦人民主クラブ全国協大阪支部」が協賛。

◆物的証拠ないまま「実行犯」

星野文昭さんは一九四八年札幌市生まれ。六
年高崎経済大学^{たかざき}に入学。不正入学を告発した
学生運動に参加し、処分撤回闘争を闘いました。
さらに七一年十一月十四日には、佐藤政権によ
る沖縄「返還」は本土復帰の願いを逆手にとつ
て米軍基地を固定化・強化するもの^{さかて}として反
対する「沖縄返還協定批准阻止闘争」にも参加
しました。が、その際、物的証拠^{ぶつしんこ}が一切ないま
まに、機動隊員死亡の「実行犯」とされ、七五
年に逮捕。以来、死刑求刑（七九年東京地検）
→懲役二十年判決（同年東京地裁）→無期懲役
判決（八三年東京高裁）→上告棄却（八七年最
高裁）→第一次再審請求（九八年）→特別抗告

←一九六七年の学生時代の星野文昭さん（上）と
二〇〇四年に獄中で描いた自画像（部分）（下）



棄却決定（〇八年最高裁）→第二次再審請求（〇
九年東京高裁）→異議申立（二二年東京高裁）
などを経て、今年で獄中四十年。一貫して無実
を訴え続けています。この間の一九八八年に妻
暁子^{あきこ}さんと獄中結婚。現在、徳島刑務所在監。
裁判の中では、唯一の証拠とされた「供述調
書」は「警察・検察に強制されたもの」との証
言があり、また、星野さんを犯人と特定した「服
の色」が間違い（「きつね色」ではなく「薄青^{うすあお}」）
であったことが分かり（〇八年、さらに、開示
された写真から「鉄パイプで機動隊員を殴打^{おうち}」
していない（つまりパイプには白い紙が巻かれ
て綺麗^{きれい}なままである）ことが明らかになった（一
〇年）にもかかわらず、一度の再審請求はいず
れも棄却されています。

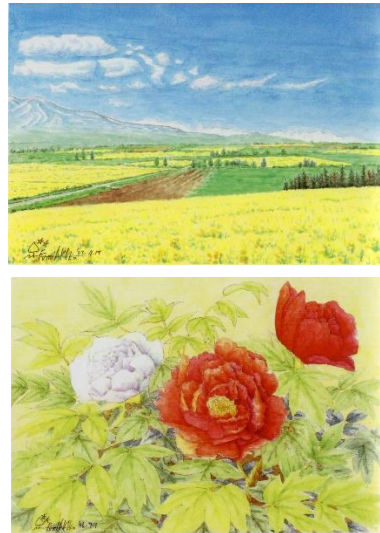
◆ 愛や平和をテーマに淡い色彩で

絵画展では文昭さんが厳しい獄中生活の中で描きためた絵画から、『菜の花畑に広がる大雪山のふもと』『暁子への想いを垂れる牡丹』『心満たす花じょうぶ』『父の田、暁子の心を癒すバラ』『八月のひまわりゆめり』など主に水彩による十数点を展示。花、風景、子供、妻などを題材に、淡い色彩で『愛』『平和』『癒し』『連帯』などを表現した作品が、訪れた人たちの目をひきつけ、絵に添えられた暁子さんの『森の匂い』『僕のロコシマ』などの詩や、家族写真、関連年表なども関心を集めていました。

◆ 「想像絶する苦しみと鑑賞者

会場には同センターの文化教室などに通った方々も多く訪れ、初めて触れる世界に驚きを見せながら鑑賞。実行委員会の女性によると、「絵のタッチがとても明らかなのに感動しました」「息子を想つお母さんとの写真に胸が締め付けられました」「『冤罪事件がマスコミで報じられています』が、星野さんも一日も早く無罪が証明されて釈放されることを願っています」「獄中四十年というのは想像を絶する苦しみ。それに屈せ

↑ 展示作品から『菜の花畑に広がる大雪山のふもと』①と『暁子への想いを垂れる牡丹』②



ず闘われていることに感動し、励まされたと同時に、しよともないことに悩みがちな自分が恥ずかしくなりました」などの感想が寄せられたというようです。

◆ 百万人署名で早期釈放をめす

実行委員会の男性は、「こうした文化的な場所で催すことにより、これまで縁のなかった層にも見て頂き、新鮮な声や意見を聞くことができました。その一方で会場の性質から政治的なメッセージを発信するのが難しい制約もあり、今後はさらに会場の幅を広げてアピールしていきたい。そして『全証拠開示・再審開始百万人署名』の取

り組みを何としても成功させ、星野さんの早期釈放を取りたいです」と話していました。

星野さんを取り戻そう！全国再審連絡会議
〒105-0004 東京都港区新橋 一・八一
六石ビル四階 ☎ 〇三・三五九一・八一四
FAX 〇三・三五九一・八一六 「eメール」
aaguu2cdgg@dream.ocn.ne.
jp [URL] <http://fhoshino.noconnection.ne.jp/>

『愛と革命』 獄中結婚した星野文昭・暁子夫妻の闘いの軌跡を、文昭さんの絵や手紙、妻の詩や手記、支援者の声などで綴った、感動の書。A5判・二四頁、一八〇〇円＋税。注文先は星野さんを取り戻そう！全国再審連絡会議。

無実で39年 獄壁こえんた 愛と革命

● 星野文昭・暁子の闘い

検察官は、徹底的に嘘つきだ!!

証拠をでっち上げ、無実の証人を隠して、冤罪を作る。一度犯人だと決めつけたらば、何でも行う。ここにもある真実を求める長い闘い！夫婦愛！知らないことが警察と検察の犯罪行為を許すのだ！

一 桜井昌司

元刑務所事件再審請求人・星野文昭・星野暁子 元刑務所事件再審請求人・星野文昭・星野暁子 元刑務所事件再審請求人・星野文昭・星野暁子

地域と溶け合い四十年

笑顔溢れた「海の子まつり」



→ 秋空の下で様々の出会いがあり笑顔が溢れた「第四十回海の子まつり」11月24日、池島の子童養護施設「海の子学園入舟寮」で

「児童養護施設のことを地域の人たちに知ってもらおう」と10月24日(土)、「海の子まつり」が池島三丁目の「海の子学園・入舟寮」で開催されました。四十回目。朝十時から午後一時まで、園生、職員、保護者、OBら関係者に加えて地域の人々が多数訪れました。

● 食べ物や遊びが一杯

爽やかな秋空の下、高揚感のあるBGMが流れ、「安いよ」「つまいよ」などと元気な呼び声を響かせる園生たち。自分たちで準備したラーメン、焼きそば、焼き鳥、ホットケーキ、綿菓子などの飲食模擬店や「千本釣り」「ストラックアウト」「へいひき」などの遊びコーナーに来場者が次々と引き寄せられています。

中央の縁台で飲食する家族連れの表情は自宅にいるかのよう。高島屋労組大阪支部も協力したバザー会場では衣類・食器・本など超安値の品々に人だかり。同学園華道クラブの児童・職員による「華展」では静かに生け花を鑑賞する姿が。また池島小、港中の教師やPTA関係者、近隣の町会関係者や店主らも訪れ、園内はさながら地域の社交場。四十年に及ぶこつした開かれ

た活動の積み重ねが、この施設をすっかり地域と溶け合わせたように感じられました。

● 「こんな施設は必要」と地域男性

参加者のうち、家族と縁台で寛いでいた四十代男性は「すぐ近くなので当たり前前の施設という感じ。この催しにもたいいて来ています。こつして施設のことを地域に知ってもらうのは良いこと。長男が少し荒れて市内の施設でお世話になって更生した経験からも、こつした施設の役割は重要だと思います」と話していました。

また同寮の職員らは「地域の方々には迷惑をおかけながらも受け入れて頂いていることに心から感謝しています」と話していました。

● 一丁十八歳が集団生活

同施設は一九四九(昭和二十四)年、野労働者の子弟を養護する「海の子の家」として設立。現在は児童福祉法に基づき児童養護施設として社会福祉法人「海の子学園」が運営。保護者の病気や離婚など様々な事情から家庭で生活できない一丁十八歳の子供たち(定員百人)が、保育士・指導員・看護師・心理士・栄養士・調理員らに見守られながら集団生活を送っています。

障害者の願い実現へ

「あゆみ福祉まつり」賑わう



→障害者福祉充実への願いを込めて開かれ、賑わった「あゆみ福祉まつり」 〓十一月三日、築港三丁目（写真は「妖怪ウォッチ」の踊り）

「住み慣れたこの街で安心して暮らしたい」

「自立や社会参加を果たしたい」という障害者の願いを掲げて毎秋続けられている「あゆみ福祉まつり」（一昨年まで「あゆみ福祉バザー」が今年も十一月三日（祝）、築港三丁目の「生活介護・あゆみ作業所」で開催され、多くの区民で賑わいました。同作業所は主に知的障害者が通所する「指定障がい福祉サービス事業所」（一十人定員）で、NPO法人大阪港あゆみ福祉会が運営しています。

◆バザーや喫茶 ステージ発表も

天保山公園のすぐそば、晩秋の爽やかな空気のなか、メインのバザーは十時オープン。同所の庭や塀の外に、年間を通じて区民から寄せられた衣料・食器・雑貨・本・玩具などが所狭しと並べられ、屋内では利用者による自主製品を展示。十五時ごろまで区民が次々と訪れては買い求めていました。また喫茶コーナーでは珈琲・紅茶・ケーキ・栗ぜんざいなどで一息入れる来場者の姿が。どのコーナーでも支援者（家族会）や「応援する会」の会員が対応に大忙しでした。

一方、駐車スペースでは、昨年好評だった「ス

←好調な売れゆきだったバザー①と、アクセサリなどが人気を呼んだ自主製品売り場②



テージ発表」が今年も登場。漫才・ハンドベル・合唱・ダンスなどが利用者や職員によって次々と演じられ、最後の踊りでは会場一体の盛り上がりが見られました。

◆「これからも協力したい」と三十代男性

来場者のうち、「飼猫の遊び相手に」と大型のキャラクターぬいぐるみをカンパ込みの千円で買い求め、スタッフから珈琲とケーキをサービスされたという三十代男性は、「毎回来ていますが、特に去年から登場したステージ発表が面白く、熱演について最後まで見入っていました。国や自治体の障害者福祉は不十分で、法的な制約や消費増税などで、むしろ状況は厳しく

なっています。微力ですが、これからもこんな形で支援していけたら」と話していました。

なおこの日のバザーで約十四万六千円の売上があったことが、同所から後日、区民への感謝及び今後への決意と共に報告されました。

◆「日曜作業所」からスタート

あゆみ作業所は一九八一年、難波看護学校生の父母が中心になり、「日曜作業所」としてスタート。「住み慣れた地域で働き、暮らし、社会参加したい」「語り合える仲間がほしい」という障害者とその家族の切実な願いに添えて活動を続けてきました。九二年には弁天へ、〇四年には



→好評だったステージ発表。上は社会ネタで笑わせた「ガッキー★ブラック★ビート」の漫才、下は「ドレミの歌」などのハンドベル演奏

←好評だったステージ発表。上は昨年に続いて大受けした自称・長瀬剛さんのギター演奏、下は「六甲おろし」などで盛り上げた合唱



築港の現在地へ移転。〇六年にはNPO法人の認証を受け、〇七年には新施設の完成と共に指定障害福祉サービス事業所へ移行し、新たな歩み始めています。現在、十五歳以上の重度知的障害者、重複障害者が通っています。

◆求められる区民の支援

同作業所では利用希望者に「気軽に見学を」と呼びかけると共に、事業の一層の充実のために区民の支援を募っています。その方法の一つが「あゆみ作業所を応援する会」への入会。入会方法・年会費など詳細は同作業所（築港二一〇・一八、天保山公園南向かい、TEL・FAX六五七二一〇七二四）へ。

啓蒙的・実益的な情報

あれこれガイド

●天満宮の越年・新年行事

①大晦日十八時〇〇大祓式（身を清めて新年に備える。参列自由）
②大晦日二十四時〜深夜二時〇〇境内で御神酒振舞い、綿菓子振舞い（主に子供、福銭授与・数量限定・無料）、豚汁・善哉（百円）、御守・御籤授与（特設テント受付）③深夜三時〜元旦九時〇〇御守・御籤授与（社務所受付）④元旦七時〜歳旦祭（国や地域の繁栄を願う。参列自由）⑤一月一日〜十五時〇〇書初め・書道展（書を通じて



→天満宮の昨年の越年・新年行事から。大晦日の綿菓子振る舞い①と二日の書初め・書道展⑤

て地域のふれあい。参加無料。墨・筆半紙は用

意されているのでまぶらで。上達祈願の神前奉

納可。三先小・池島小児童の作品展示。十五時こ

る奉納奉生祭(参列自由)。天満宮奉賛会が主

催⑥二月二日十時元始祭(皇室と国家の繁

栄を祈る。参列自由)▽御鎮座百八拾年奉

祝祭写真展二月二十四、二十五日に挙行さ

れた同祭の様様を写真で振り返る。大晦日から

境内若名板に展示▽天満宮は三先一・五・四

〇、港南中学校北隣。☎六五七二・〇五二。

●ワークみなと「東北食品」 東日本大震災

で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所

が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製

法で作った体こ心にやさしい豆腐・豆乳・青豆

豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心

両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から

(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精

神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定

障害福祉サービス事業所(夕田二・六・三、☎

六五七二・七五二)。

●繁栄ワイワイ市場 商店街に個性的な露店

がズバリ。各地で活動する様々な分野の業者が

←過去のワイワイ市場から。上はさおり織体験
下は窯焼ヒッツア販売



一堂に会することで業者同士の交流と商店街・

地域の活性化をめざす。毎月第二十曜の十々十

六時、繁栄商店街(南市国二丁目)で。手作り小

物販売、似顔絵、さおり織体験、野菜市、沖縄

物産販売、唐揚げ販売、窯焼ヒッツア販売、L

ED照明PR、保険案内、占い、マッサージ、

バルーンアート、ネイルアート等々。月替わり

特典あり。土・月は毎週開催(十九日は三角くじ、

二十八日は風船わつて景品ゲット、三十日も超

特価セールとクイズに答えて金券ゲット)。一月

は休み。主催は繁栄商店街振興組合。問合せは

ふとん館ひらのや(☎六五八三・〇三六)へ。

●ムチ打ち(首・腰 無料相談会 交通事故で

ムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談

会。十月十七日(日)十・十八時に行政書

士のむら事務所(築港二・七・一・六〇八)で。

一人約一時間。事前予約制。電話かEメールで。

「どついたら正当な補償が得られるかをアドバ

イスします」事故後、早めの相談が良い結果に

つながります」(同事務所・野村光恵さん)。E

メール info@jikkou110-nomura.com、TEL 六五七六・六〇七八、F

AX 六五七六・六〇七九。

●戦争体験記『平和の空よ 永遠に』 東満州・

延吉で終戦を迎えた十六歳の少年が日本に帰

り着くまでの波乱と苦難に満ちた体験を綴った

感動の書。戦後七十年に鑑み、次世代に戦争

の悲惨さと平和の尊さを語り継がんと、本紙に

連載の「平和のため戦争体験語り継ぐ」に加筆

し、資料を添えて入魂の冊子化。希望者には三

百円(送料・税込)で頒布。詳細は筆者 猪伏昌

三さん(TEL 531・0074 大阪市北区本庄東

二・四・一・二二三、TEL・FAX 〇六・七五

〇八・一一一七、Eメール mkk5@w2.d-i

online.jp)へ。著者はもも田中の住民。

叫びたいわ！

おおの
大野 ひろ子 さん (南市岡)



派遣を恒常的にする 労働者派遣法の改悪

戦争法強行採決と同様に、終盤国会で強行されたのが労働者派遣法改悪です。十月一日になると、前回の派遣法改定で導入された「労働契約申し込み みなし制度」が始まるため、それを実施させないために、何と参議院で審議入り

したあとから施行日を九月三十日に変更するというムチャクチャなやり方でした。この「みなし制度」は「違法派遣があった場合、当該労働者が希望すれば派遣先企業の正社員になれる」というもので、この間、違法派遣を指摘・指導されてきた千数百社にのぼる派遣先企業が派遣労働者の正社員化の義務を課せられるはずでした。それを大手の派遣業界などが強い圧力で改悪させたのです。彼らの強欲には果てがありません。直接雇用を目前にして法を変えられた派遣労働者の怒りと落胆は想像に余りあります。

◆ 正社員自切りも心配、口雇派遣も悪質化
今回の改悪により一人の派遣労働者は三年しか同じ職場で働けません。今まで年限がなかった専門・十八業種も三年が限度に。同時に、企業は三年ごとに人を入れ替えれば同じ業務を派遣労働者だけにやらせることができます。あくまで「臨時的・一時的」とされてきた派遣労働が「恒常的」なものに変更されてしまったのです。企業は正規雇用を中止し、極端に言えば派遣労働者だけで業務を回すことも可能になりました。「労働組合の意見を聞く」と言っていますが、

「同意」でもなく、屁のツツパリにもなりません。なので、今は正規雇用の労働者もたちまち身分が脅かされる危機に立たされたのです。派遣労働者の雇い止め解雇問題とあわせて正社員解雇や退職強要の増加が心配されます。

また前回の改定で原則禁止とされた口雇派遣はその後「口雇紹介」という形でさらに悪質化して残ってきました。その上、財界は今後再び口雇派遣を認める法改悪を正んではいるようです。

◆ 「経済的徴兵」を促進
八時間労働制を解体し、残業代も払わず労働者を無制限にこき使う労働基準法改悪案Ⅱ「労働者奴隷化」案の成立は阻みました。が、次の国会での成立を狙っていることは明らか。さらに解雇自由を認める法改悪など「世界で一番企業がもつけれられる国」にするために労働者保護法の大改悪が目白押しです。貧困を拡大し、奨学金返済や失業にあえぐ若者を自衛隊に入れ戦場に送りこむ「経済的徴兵制」一体です。安倍自公政権と財界のやりたい放題、もつこれ以上許せません。しっかりと闘っていきましょう！

(港の同南労働会支部 〇八五八三・四八五八)

叫びたい！

ここにまことし

小西 正敏さん（六四歳、田中）



介護施設にカジノ 害にしかない

「カジノ型介護施設」を「存じ」でしょうか。

聞きなれない言葉ですが、カジノやパチンコ、マージャン、ルーレットなどの娯楽設備を備えた高齢者向け介護保険施設のことです。現在、関東を中心に広がっていますが、国や地方自治

体の税金が投入されている介護保険施設が、介護サービスの提供という本来の役割から逸脱し、在宅で介護できない利用者の弱みにつけ込んでこのようなサービスを関西にも広げようとしていることに、私は大変危機感を持っています。

◆問題点を関係者が指摘

そもそも介護保険の適用を受けている高齢者は、ケアマネジャーが作成したケアプラン（介護サービス利用計画）に基づいて介護保険施設で介護サービスを受けることになっており、その中には当然リクレーションも位置付けられています。しかし、カジノ型介護施設では、お金を賭けないといえ、①利用時間の大半がパチンコやカジノに使われてケアプラン通り本来の介護サービスが提供されていない②利用者の射幸心やゲーム依存があらわれるなど、多くの問題点が関係者から指摘されています。

◆背景に利用者獲得競争

この点について十一月二十四日付産経新聞は「『カジノ型』の介護施設が広がる背景には、施設間の利用者獲得競争の激化がある。厚生労働省によると、平成二十四年度の通所介護施設

の利用者は約百八十万人と二三年度の約二・五倍に、少ない設備投資で開設できるデイサービス施設は約二万六千カ所と二倍以上に、それぞれ急増している」と報じています。

◆自治体も規制に動く

さらに、こうした介護施設に対して今秋、神戸市と兵庫県では、カジノやパチンコ、マージャンなどの設備を備えて高齢者向けの「コミュニティメント型」「カジノ型」と呼ばれる介護保険事業所を規制する改正条例が相次いで制定されました。これは、射幸心をそそるサービスは、ギャンブル依存につながりかねず、税金を投入される介護保険施設にそぐわないといふ多くの疑問の声に応えたものでした。

高齢者が介護保険施設でケアプランに沿って色々なゲームで楽しく過ごすことは何ら問題ではありませんし、むしろもっと必要でもあろうでしょう。しかし施設の外で自分の意思で自由にやるカジノならともかく、施設内に機器を備えてまでそれを奨励するというのは、害にこそなれ、介護に必要とは到底思えません。読者のみなさんはどうお考えでしょうか。

みなとサロン

「別れ」つづいふ

池島・勝部 泰臣 八十二歳

人は生まれてから出会いと別れをくり返す。

「花」風フタトエマルサ、サヨナラダケガ人生だ」。井伏鱒二の名訳。何かにつけてこの文句が引用されるのも、別離といふことが、人の世の無常、哀しみの極みだからだろう。

伴侶を亡くした高齢者について病が多いといふ。高齢者の生活調査プロジェクト「AGES」

といふ国内最大の機関が、うつでない三万七千人の男女を対象に、「独りで食事をする人」「孤食？」「いついつ」と「誰かと一緒に食事をする人」「共食？」を比較追跡調査したところ、二年后にうつになる可能性は、男性二・七倍、女性は一・四倍。いずれも孤食の人がである（女性はやっばり強い）。機会をつくって皆で「フイフイ」食事をしながらいついついふらいつ。

私事で恐縮だが、私は酒に逃げた。一年有余、

酒に溺れた。酔って街を歩き回り、気がついたら病院といつても一度。

マイナンバーに提出用の写真を搜してたら、亡き妻と知り合った頃、山陰の海岸で撮ったアルバムが出てきた。気がづいたので、写真搜しをあわてて止めた。

男も女もつらいことには変わりはない。「いつまでも引きずってからに……」と言われたこともある。心の中に棲み続けている妻と、良い対話ができたらなアと思うつづいふはば。

そんな時、若き女優の妻に先立たれたアという作家の言葉にふれた。曰く「時はクスリ」。耐えて、耐えて。

生きたまま「区民まつり」伝わった

（市国元町・七十年代 元公務員）

十一月では「港区民まつり」を詳しく報じたトップ記事に読みこたえを感じました。

私たち夫婦も十一時ころ会場に入り、模擬店でチヂミとおにぎりを買ってテントで食べ、舞台での踊りやグラウンドでの運動会（ジャンボ縄跳びをやっていました）、横の公園での展示な

どを鑑賞するなど、約二時間、けっこう楽しい時間を過ごせました。ジャンボ縄跳びを一生懸命撮影されている港新聞の記者さんの姿も初めて拝見でき、良かったです。

記事ではそんなイベントの様子がたいへん詳しく記され、見出しにあるように、区民が曇り空を吹き飛ばすかのように、元気に和やかに触れ合った様子が生き生きと伝わってきました。いつもながらの熱心な取材ぶりに改めて感心した次第です。特に参加者や裏方さんの声の聴き取りは、その多さといひ、内容といひ、素晴らしい一言。よくあの慌ただしい中でこれだけのインタビューをされたと驚いています。

その上で、最後に「歓迎せやういふ」として挙げられている三点は、今後の課題として指摘されている三点は、恐らく運営に関わった方たちにとっても貴重な振り返りとなり、また大きな励みにもなることでしょう。

全体として、「よりよい港区つづいふ」に貢献する」という発行目的を掲げた資料の面目躍如たる姿勢の熱々、質の高さを感じた記事でした。

鮮やかに政治批判「あさやけ」

（三先・ライター）

職業柄、いつも「あさやけ」から読みます。

十一月までは、尾崎行雄の「議事堂」とは名ばかりで、実際は表決堂になってしまっている」との当時の議会批判に始まり、それと何ら変わるものがない今の国会、さらに身近な大阪ダブル選へと無理なく視点を移した上で、その争点「都構想」を、「臭い」をキーワードにした「思いついたリスト」で笑わせながら完膚なきまでに批判。最後に再び、しかし今度は「憲政の功労者」という側面にスポットを当てつつ尾崎へ立ち還り、それにキーワード「臭い」を流させて形を整えた上で、「オール庶民の奮闘」という最も強調したいフレーズで幕を引く。いつもながらの鮮やかな展開に舌を巻きました。

また、その中盤に「都構想」橋下ガスの成分として挙げられた八項目の罪状は、的確・簡潔に「ユーモア」が加わった絶品の表現。思わずにまりてしまいました。そして、言うまでもなく、全体として、現代政治への痛烈な批判・警鐘になっていました。毎度のようですが、面白

「辻悦子さん（市岡元町）からの絵手紙



くて勉強になる「あさやけ」に感心&感謝です。

介護保険の根本ついた小西提言

（三先・六十代 商店主）

「叫んでいいよー」をいつも最初に読んでいます。十一月の「介護保険で高齢化社会を

守れるか？」という小西正敏さんの提言（九頁）は、お母さんを世話する中で感じた介護保険の矛盾に疑問を投げかけたもので、直接経験した「病院利用者には介護保険の恩恵が全くない」という問題をきっかけに「根本的に問題ある制度であり、早晩破綻する」「医療と介護を区別すること自体、元々無理がある」と、目を根本へ根本へと向けられているところが鋭いと思いました。「どうすればこの国民的危機を打開できるか」という最後の呼びかけには文字通りの国民みんなが応えなければならぬと思います。毎回、庶民が突き当たる色々な疑問を、自ら行動しつつ投げかけて下さる小西さんの提言。これからも期待しています。

下水処理の流れが頭に入った

（築港・三十代 一児の母）

友人に聞いて初めてネットで拝見し（全戸配布されていた頃にはいつも読んでいましたが、充実した地域情報に驚きました。区民まつりをはじめ、どの記事も詳しく読み応えがありましたが、私も子供を連れて一度行ったところのある

市岡下水処理場「一般公開」の記事「暮つしええ下水道」(十一月号)十頁が特に印象深かったです。見字当時のことが懐かしく思い出されると共に、そのときよく分かっていたなかったこと(微生物の働きや抽水所の役割など)が理解でき、下水処理の流れがさらにしつかり頭に入りました。分かりやすく丁寧な記事に感謝します。これからも毎月読ませて頂きます。

心に残った市岡日本語教室の活動

(此花区・七十年代 自由業)

ネット読者です。十一月号では「草の根国際交流二十年 市岡日本語教室が記念式典」(十六頁)が心に残りました。外国人が増える中で二十年も前からこのような活動をされていた先見性に驚くと共に、宗教や人種の違いなどからテロ・紛争がますます戦争状態になっていく世界にあつて、どの国の人にも分け隔てなく日本語を教えることで草の根の国際交流、草の根の平和活動を果たされていることに、心から敬意を表したいと思いました。戦争体験者のはしぐね(中国大陸からの引き揚げ者)と

て、平和に資するようになった活動が今後ますます発展されることを願っております。この他にも十一月号では美術関係の記事「迫力の風景画大作 川島恵美子さんの作品展にぎわつ」(三十八頁)や「ほつり個性溶け合うつまいで六人展」(四十頁)にも平和を感じ、心が温まりました。

萩野さん「思い出云に温かさを感じた

(波除・六十年代 無職)

十一月号では「バレーに捧げた生涯 萩野入美子さん(思い出)二百人」(三十三頁)が温かくて良かったです。詳しい記事で、お別れの様子が目に浮かぶようでした。地域バレーボールの功労者とはいえ、亡くなった後にまでわざわざこんな盛大な催しを企画するところに、港区民の温かさを感じることができました。活動を共にした人たちの「お別れの言葉」が特に感動的でした。それにしても、萩野さんのはじけるような笑顔の写真からは、その四年後にいくなるとは誰が予想したでしょう。死因は癌(がん)のことですが、スポーツをしているからといって健康に油断してはいけないうちを改めて突き付けら

れた気がします。

追伸 退職前後に一時ソフトボールをやっていたこともあって「市岡小に初の栄冠 区ソフト十五チーム熱戦」(三十三頁)も面白く、特に決勝戦の様子は実況中継のようで、優勝・準優勝チームにはこの上ないプレゼントになるだろうと思われました。

「さんま祭り」に老人クの元気見た

(磯路・六十年代 パート女性)

毎月冊子を届けて頂き、ありがとうございます。十一月号は「区民まつり」をはじめとして元気の出る記事が多かったように思います。中でも私は「東北頑張れ」と一丸 区老連『さんま祭り』超活況」(二十八頁)に元気をもらいました。「疲れたけど、震災復興という高い目標を持った活動なので、やりがいを感じる」という大森さんのコメントや、男性たちが煙の中で秋刀魚を焼き続ける迫力満点の写真から、参加者の心意気がびびり伝わってきました。特別参加の中学生の「コメントは正直で可愛いつつ、思わず笑っていました。それにしても、仕

入れなど大変な準備を伴う活動を、大震災の年から四年も続けておられる港区の老人クラブ。本当に頭が下がります。

迫力の風景画、川島さん「活躍を

(築港・六十代 主婦)

自分でも水墨画を描いていますので、美術関係の記事には目が留まります。十一月には「迫力の風景画大作 川島美子さん作品展」にぎわう「二十八頁」が良かったです。実際に見るともっとすごいだろうと思われますが、写真からでも力強さが伝わってきました。特に白鳥の大作『亜拉神山』の地底から突き上げるような山容は、本当に神山という印象を受けました。高齢の女性とは思えない迫力ですが、このエネルギーがどこから出ているのだろうかと思ってしまう。最後の「コメント」が良かったです。「描く時には」を暮らす人々を思い、祈りながら筆を動かしています。多くの方のお力添えで好きな絵を続けられたことに感謝しつつ、これから写真実主義を貫き、平和を願い、画家としての最後の一点めざして努力を続けたいと思

っています」と。今後のますますの「活躍」を心から願っています。

自滅した反維新、大同団結を再び

(港の加勢大周)

四月、五月の時点では反維新の力は非常に強大であった。それ故に府議選では維新に過半数を与えず、二市長選では維新を全滅させ、都構想の住民投票においては否決に追い込んだのである。その非常に強力なハワーを骨抜きにしたのは、他でもない、反維新の中核ともいえるべき自公勢力であった。

自民は「共産と組んだから負けた」「維新の力が強すぎた」などと府知事選・市長選の敗因を言っているが、半年前は共産と組んで維新に勝てたではないか！ 維新の力は強大だが、こちららはそれを上回る力が半年前にはあったではないか！ おたくらの政党がこの半年間、国政で何をしてきたのか直視しろ！ ひたすら民意を無視し、対米追従、反動でもとれる行為を繰り返してきたのではないのか！ 戦争法、国民監視法のでっちあげ、米軍基地の辺野古移設強

行、TPPなどがそれである。そんな事をしていては支持基盤にひびが入るのも無理はない。その表われが、最近の東北地方選(自民議席減、共産議席増)、そして今回の府知事選・市長選の結果である。

維新政治への疑問・不安・反発が未だ健在であることは、その投票率の低さに表われている。これを生かすも殺すも、これからの運動次第。五月の住民投票で見せた、あの党派を超えた大同団結を今一度よみがえらせること、これが、今回のいわば「自滅」からの最大の教訓があるのではなからうか。

とにかく得電ねん!

LED照明に 換えてみませんか!

コスト減 + 環境貢献
(電気代カット・驚異の長寿命) (CO2を削減・有害物質ゼロ)

- 割れない、熱くない、すぐ点くなどのメリットも
- 店舗、工場、オフィス、家庭、屋外、公共施設に
- 場所や用途に応じてタイプ色々、取り替えも簡単

中小企業で世界初の全社屋LED化<見学歓迎>

前田機械(株) LED事業部
(LED照明・企画販売)

市岡元町2-3-28 ☎6582-5010
<http://www.maedamachine.com>

あさやけ

師走に因んで寒く話を一席。―吹雪の夜。樵仲間と避難した小屋で、若くて男前めえ自分だけ雪女に気に入られ、命拾いしたのは口元。『今夜の事を喋ったら殺すよ』と凄まれる。が、十数年後、申し分ない女房(実は雪女の化身)との幸せに「気を許して口を滑らせたため、彼女には逃げられ、殺されない代わりに男手一つで十人の子を育てる羽目になった」。『存じ小泉八雲の怪談。イケメンがイクメンになったという怖い筋書ですが、ここから汲み取れるのは自分の為に設けられた一線を超えると碌な結果にならんと』という教訓。同様の戒めは有名なお伽話や民話にも。乙姫様から開けてはならませぬと釘を刺された玉手箱を開けたために故郷も若さも失って虚空に消えたのは浦島太郎。恩返しに嫁いであげた鶴の化身の女房から「覗いちや嫌」と念を押された機屋を覗いたために飛び去られて呆然と虚空を仰いだのは与ひょう。二人ともせっかく手にした幸福を

チャラにしまいました。そこで懐かしの連想ゲーム(六九・九二年NHK。住民投票で二度つけアカンと種を嵌められた都構想がまだもや持ち出された先月のダブル選。戦争法やP.P推進の売国政党への反発もあって純朴な大阪人は大いに悩み、ややこしい結果とは相成りましたが、禁を破ったおおばか「いや」おおさか維新の会にはどんな結末か?。賢明な読者なら先の三話から連想し、先月の欄で出したクイズもヒントに正解はあべ出でしよう。つまり彼らの正体①米財界の露払い(カジンの受け皿作りなど)②自公の補完(戦争法やP.P賛成など)③公の否定(地下鉄民営化など)④庶民蔑視(敬老パス賛沢呼ばわりなど)⑤弱肉強食(教育にも競争原理など)⑥独裁(市長の顔見て仕事せよなど)⑦道徳破壊(前官撤回・仲間罵倒・政党助成金持ち逃げなど)が明らかに becoming して、これまで期待してくれた市民からも「やつは変やねん」と見離され、手先として送り込んだべつれた米財界からも「もうえええ」と使い捨てられ、呆然と東の空を仰ぎ見る……とな末路を迎えるとは、一戸が確かでしょう。と

高度な頭の体操で温もった後は心から寒い究極の昔話で二〇二五年の締めを。先のパリ同時テロなど思つて「都構想なんかでわあわあ言い合っているのはまだ幸せな方かも」なんて思えるほど世界が底なしの惨状を呈してきましたが、その根本原因は何と問われた時、読者はここに答えを求めよう。最古の書『聖書』には「……あります。曰く、最初の人間アダムとエバがサタンに唆され、「善悪の知識の実(善悪を自分で決められるようになる)を食べたらアカン」という創造主からの唯一の掟を破つたために「はな好きにしなければ」と無制限の自由を与えられ、その代わり罰ゲームとして罪と不完全さとサタン支配の三点セットを子々孫々受け継いだい。これが正答かどうかは読者の深慮に委ねるとして、唯物論や進化論で「神なんておらん」「人間こそ最高」と我が道を突っ走ってきた人類の成れの果てもいえる現況を見れば、これ以外の説明は恐らく無理でしょう。いずれにしても、禁断の一線を超えたら悲惨な結果が待つという教訓は、口元より遙か昔、最初の夫婦に源を発しているのかもしれない。

ドクターは大忙し

おもちゃ病院、喜ばれて一年半



→ 設立一年半の「おおさか・みなと・おもちゃ病院」。この日も十数人が患者を連れて訪れた。十一月七日、港区子ども子育てプラザで

「お願いします」と抱き込まれた病气や怪我のおもちゃが無料で治療を受けて元気に退院。そんなボランティア活動が港区でスタートして一年半。ドクターたちは今、途切れぬ受診に嬉しい悲鳴をあげています。その名は「おおさか・みなと・おもちゃ病院」。

同病院は、昨年八月に開かれた講習会・港区社会福祉協議会と港区子ども子育てプラザが主催をきっかけに、十数人で発足。同月には磯路の港区子ども子育てプラザに、十一月には弁太のひまわりに病院を開設。これまでに区の広報やネットで知った百数十人が訪れました。

患者の年齢は幅広く、木製やブリキ製やぜんまい仕掛けの年配もいれば、電動やラジコンの壮年、さらにはIC搭載の若者も。また病状や怪我の具合も千差万別で、電池容量不足やゴミ詰まりなどの軽症から、配線不良やスイッチ不良などの重症、さらにはIC基盤崩壊など施術不能な患者まで。そんな症状に応じて清掃、ハンダ付け、ギア交換など様々な治療を施します。ドクターは現在、六十代の退職者を中心に四十代〜七十代の十四人、うち一人は女性。それ

「IC搭載ヘリを治療する四十代ドクター」とラジコン車を治療する六十代ドクター①



ぞれの得意分野を受け持つと共に、互いに教え合って治療水準をアップ。重症患者は家へ連れ帰るなど苦労はそれなりにあるようですが、退院時に見せる保護者の笑顔が何よりのエネルギー。去る十月には「四十年前、息子に買ってやった」というラジコン玩具が高齢女性から持ち込まれ、難手術の末に引き渡したそうです。「あの時の感激は忘れられません」と中川院長。医師たちの思いを代弁してくれました。

同病院は港区子ども子育てプラザ（磯路一・一・一〇）で毎月第二十曜十二〜十五時にひまわり（弁太一・一五・一）で毎月第二火曜十三〜十五時に開院。診察・治療は無料。部品交換は要実費。問い合わせは港区社会福祉協議会（☎六五七五・二二二）担当：荻野さんまで。

波除クが十年ぶりV

市長杯バレー 十五チーム熱闘



→十五チームが熱戦を繰り広げた市長杯バレー
 〓十一月十五日、港スポーツセンター(写真は
 決勝でスパイクを打ち込む波除ク・西本選手)

「バレーボールを通して生涯スポーツの普及と地域のつながりを」と今年も十一月十五日(日)、港スポーツセンターで「港区市長杯・港区女子バレーボール大会」が開催されました。港区バレーボール連盟(数下俊文会長)が主催。十四回目。十五チームによる熱戦の末、波除クラブが優勝。弁天クラブが準優勝を飾りました。

●「四区大会のぞき」と会長

朝九時からの開会式では主催者を代表して数下会長が、故・萩野久美子前会長追悼会(十月十六日)での協力に感謝を述べた上で、「バレーができる喜びと家族への感謝を忘れず、また四区(港・大正・此花・西)大会出場めざして全力プレーを。外の雨を吹き飛ばす熱気あふれる大会に」と呼びかけました。

また来賓を代表して西徳人市会議員が「改めて萩野前会長の『冥福を祈る。十一月は土の月。サムライジャパンが野球やラグビーで活躍しているが、バレーボールも皆さんのような地域バレー人口の増加が五輪出場への力になる。今日はチームの絆を何より大切に、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し、悔いのない一日に」

←開会挨拶をする数下会長ら港区バレーボール連盟役員(上)と、宣誓する中松珠美選手(下)



と選手たちを激励。南市岡クラブの中松珠美選手が「私たち選手一同は、仲間と頑張った練習を生かし、チームメイトを信じ、全力でプレーすることを誓います。」とシンプルな力強い宣誓で会場を引き締めました。

●懸命の攻防が感動呼んだ決勝

試合は夕方五時に及び、三コートに分かれた予選での上位四チームが決勝トーナメントに進出。準決勝では弁天クラブがISOJを対〇、波除クラブが波除小PTAを対〇で破って決勝に進みました。

決勝では四試合目とあって疲れがピークに達する中、共に声を掛け合い、気力を振り絞って

の攻防が感動を呼びましたが、セッターと二枚アタッカーを中心にベテランチームならではの静かな気迫と沉着なプレーを見せる波除クラブが、鍛え抜かれたレシーブ力に四枚アタッカーという攻撃層の厚さを誇る弁天クラブに、二セットとも後半までは一進一退ながら、いずれも終盤に流れをつかみ、二対〇（二二一対十五、二二一対十七）で勝利を収めました。

試合の中では、波除クの二枚アタッカー（西本、園部）の相手の隙を突く巧みなスパイク、セッター嘉正の驚異の運動量と自在なトス、弁天クの四枚アタッカー（金城、小田、奥澤、杉森）の要所での気迫あふれる強烈スパイク、ベテラン藤川の安定したトス、四連続ポイントをもたらした和田の勢いあるサーブなどが目を引きました（以上、試合模様は敬称略）。

波除クは予選から全てストレート勝ちで、この大会十年ぶりの栄冠、通算では二度目の頂点。四区大会（来年八月）への出場権を実力で手にしました。一方の弁天クも予選から準決勝までストレート勝ちで通過。その勢いで四連覇なるかと思われましたが、最後にやや冷静さを欠い

←決勝でスパイクを打ち込む弁天ク・小田選手
①と、敗退後も大会を支えた選手たち②



てイージーミスが続ぎ、無念の涙。しかし、この大会十四回中七度目の決勝進出で、出色の安定感を改めて印象づけました。

● 相互審判など裏方でも活躍

決勝と同時に行なわれた三位決定戦では、オーが波除小PTAを二対一（二二一対十八、十九対二十一、十五対十七）で降し、三、四位が決定。この他のチーム（築中OB、南市岡クラブ、AUNTS、港南、八幡屋クラブ、港中OB、港南OB、しろはと、市岡小PTA、港南中PTA、CHIKKO順不同）も日頃の練習の成果を発揮して健闘し、試合に敗れたあとも閉会まで、相互審判や応援、清掃などで大会

進行を支えました。閉会式では数下会長から一、三位チームに賞状と記念品（バレーボール）が手渡されました。

なお、会場にはいずみ鍼灸整骨院（弁天一丁目）と区内外に十数店舗の施術士三人が待機、肉離れ、捻挫、膝痛などを訴える十数人に、マッサージ、テーピングなどの予防・応急処置を施し、選手たちの安全を支えました。

● つなぎのまぐつで十年ぶり優勝

大会終了後、優勝・準優勝チームに感想を訊きました。

優勝の波除クラブは、かつて伝説の八連覇を遂げた波除小PTAチームを母体に結成されて三十数年。港区の生涯スポーツの模範ともなっているベテラン中心のチームです。週一回二時間、波除小で練習。少数アタッカーという攻撃面の弱点を、徹底したレシーブと、相手の隙を突く巧みなプレーで補い、港区の各大会では絶えず上位争い。多くのチームから苦手意識を持たれています。年齢幅は四十代から七十代。

浜川綾子監督に代わってインタビュアーに応じた榊原正枝主将は「十年ぶり優勝が叶ったの

は、何より一人一人が自分のポジションで持てる力を出し切ったから。弁天クラブさんの連覇を阻もうという目標を持って出場したものの、最後は私自身も足がつかないなど、みんなウツク、ボロボロでしたが、氣力を振り絞って頑張りま



→十年ぶり優勝に沸く波除クラブ。後列右端は祝福する港区バレーボール連盟・浜口伊知^{いちえ}副会長、その左は数下会長

した。プレーでは、とにかく相手サーブをまっすカットし、徹底してつなぎまくることに徹したのが良かったと思います。次の大会に向けては、波除小Pの選手が一人戻ってくるのを望む材料に、さらにレシーブ力を高めていきたいと思っています」と話し、喜びの中にも次大会へ願いを引き締めていました。

● 厳しいマークの中で準優勝

一方、準優勝の弁天クラブは弁天小PTAチームを母体に結成されて二十数年。数下俊文監督、高谷潔^{たかたけ}コーチの手厚い指導のもと、弁天小で毎週「一回の時間と二時間の練習を蓄積。ここ数年間は、この市長杯が昨年まで三連覇、連盟杯も今夏まで三連覇と向かうところ敵なし。各チームの厳しいマークにさらされていました。年齢幅は三十代から六十代。

インタビュにに応じた高尾治美^{たかおはるみ}主将は「準決勝まではサーブもレシーブもうち本来のプレーができていましたが、決勝では拾いきもられるという苦手意識もあって相手ペースになり、拾い負けしたという感じです。この悔しさをバネに、もう一度基本に^{もと}還り、レシーブ力、サーブ

←準優勝に笑顔の弁天クラブ。前列中央右は数下監督、その左は高谷潔コーチ、後列右三人は祝福する港区バレーボール連盟・浜口伊知江、福井真由美、田中喜美子副会長(右から)



力を鍛え直したいです」と話し、悔しさの中に全手を尽くした爽やかさを見せていました。

個性ある力作ずらり

「くぼ習字教室」が作品展



高齢者から小学生までの個性ある書道の力作が一堂に。十月二十四、二十五の両日、港区民センターで「くぼ習字教室」の生徒たちの作品展が開かれ、好評でした。

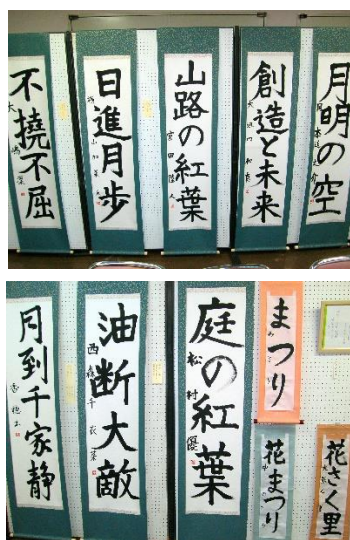
◆ 文字の意味を理解し、かみしめる

同教室は二十数年前から港区と城東区で開かれている書道教室。生徒は八十代から小学一年生まで。主宰の久保啓子さんによると、教室では姿勢や筆の扱いなど書道の基本を習得するだけでなく、文字の意味を理解し、日本語や漢語の美しさを味わいながら、その感覚を表現できるように指導。その中で、生徒どうしの教え合いや友情、さらには前向きな性格への変化も見られ、またこうした展示会の際には保護者が会場の確保や作品の運搬、設営やレイアウトに動いてくれるなど、生徒・保護者を問わない家族的な一体感が生まれているというのです。

◆ 感じられた力強さや柔らかさ

今回の作品展では、楷書、行書から草書、隷書、仮名まで数十点が展示されましたが、こうした教室の空気を反映するように、一人一人の作品に豊かな個性が見られると同時に、展示

「力強さや柔らかさが感じられた作品の数々



全体としては温かさと統一性が感じられました。

このうち大嶋凛さんの『不撓不屈』には「困難にくじけない様子」、木村朝美さんの『人生感意気』には「人生意気に感ず」、横山加菜美さんの『日進月歩』には「日に日に絶えず進歩すること」、西森千衣菜さんの『油断大敵』には「注意を少しでも怠れば思わぬ失敗を招く」との意味が添えられ、それぞれに力強さや爽やかさが感じられました。また大嶋香穂さんの『月到千家静』には「月は千家に到って静か 秋の月が限りなく家々を照らす静かな夜」との読みと意味が添えられ、柔らかさと深みが感じられました。くぼ習字教室 夕凧（ト）一八四一 シティコーポレーション 期九〇一、八八五七、二一四七五

自然は誰のものか

あんがいおまる一座 『森の怒り』に反響



→入会権をテーマに「自然は誰のものか」と問
いかけ、反響を呼んだ『森の怒り』の一場面

＝十一月十二月、波除の石炭倉庫で

自然は誰のものか。この簡単にして深い問いを投げかける音楽劇『森の怒り』が十一月下旬～十二月初旬に波除のフリースペース石炭倉庫で上演され、反響を呼びました。石炭倉庫を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあんがいおまる一座のスタジオ公演。故・石上玄一郎氏の原作を同一座の座付き作家であった故・綾羽一紀さんが脚色、あんがいおまる座長が演出。故・北野隆さんが劇中歌を作曲、神野翼さんが舞台装置・美術、羽子岡爾明さんが舞台監督、八上和裕さんが音響・照明、梶岡志保さんが歌唱指導。出演は真田克幸、ヨシシー原本、はらいわお、くめくめ、八上祐子、道野学、後藤基昭、阿部桂子、金田光子、浜木琉唯ほかの各氏。なお期間中の上演時間外、神野さんによる舞台装置の展示が行なわれました。

◆木樵と作家が故郷・右手を語り合う

——古色匂つ異様な身なりで動物園のニシキヘビに右手民謡を聴かせていたため怪しまれ警察に突き出たそれどころになることを、同じ右手出身の青年作家・石上に救われたのは老境の

木樵・彦兵衛。故郷の山林の入会権（人々が共同で使つて利益を得る権利）を取り戻す裁判のため上京していたのだ。二人は酒を酌み交わしながら共通の故郷を追想する。その昔、村の山林は誰もが自由に出入りし、領主の横暴にもその権利を明け渡すことはなかった。が、明治から大正、昭和へと資本主義化が急速に進む中で、私有権を得た地主が転売を繰り返すうち、村民が立ち入ることは許されなくなった。「皆の森を取り戻そう」と立ち上がる村人たち。しかし戦前から戦後にかけての裁判ではことごとく敗訴。そうして最後の望みを託して上京した彦兵衛に、石上は「丁チエの言葉を贈つて励ますのだった。」「たとえ人なき浜にただ一人あるうとも唄つて唄えぬことはない。汝自身の耳に」。しかし高度成長の世にあって、所有権はもはや崩すこと能わぬ壁となって彦兵衛を追い返した。やがて三年後、仕事で故郷を訪れた石上に衝撃の事実が知らされた。原因不明の山火事で件の林は見る影もなく荒廃、彦兵衛はその中へ還るかのように焼け死んでいったといふ。呆然とする石上は人と自然の関係を改め

て問った。「木々の上を 森の上を 空高く飛ぶとき 人が傲慢から作った国境は見えない。誰のものでもない自然を 人の我欲で殺してはいないだろうか」――。

◆ 入会権を問った原作と脚本

郷里・東北の風土を背景に、現象学や仏教思想の影響を受けた独自の実存主義的作風を展開した石上氏（一九二〇ー二〇〇九）。その作品の中でも入会権をテーマにした『森の怒』（五八年「中央公論」）は哲学的かつ難解な文体で知られていましたが、〇四年、綾羽さんによる舞台化で身近なものとなりました。今回が再演。

誰のものでもなく、また誰のものでもある自然。それがいつの間にか「所有権」の名で私物化され、私利私欲のために使われ、破壊さえされるようになった人間社会への怒りと悲しみが、二人の主人公の束の間の交流を通して表現され、観る者の胸を打ちました。

◆ 正義感や素朴さ体現した演技

誠実さを前面に出した石上役・真田さんの爽やかな演技は、青年作家の正義感や知性を体現し、武骨な言動を押し出した彦兵衛役・ヨシシー

原本さんの重厚な演技は、自然と共に生きる木樵の素朴さや力強さ、温かさを体現。語り部や他の登場人物の大半をあえて黒子や仮面姿で登場させ、台詞や動きも無機的に抑えた演出は、主人公一人を際立たせる点で効果的でした。

また美術を担った神野さんによる幹や枝のたつち回るような造形には、人間の私利私欲に蹂躪される自然の怒りや悲しみが籠っているかのよう。八上さんによる照明は、現実と回想を明暗で隔てつつ同じ場で並行させる手法が、人物の内面の視覚化に効果を上げていました。

◆ テーマ浮き出させた劇中歌

随所に挿入されたビバルディ『四季』などの古典音楽は自然本来の美を愛でることで劇の基調音となつて物語を円滑に運び、北野さん創作の劇中歌『野生の帝王』は動物園など人工の環境にあってもなお失われないニシキヘビなど動物の野性を、『森の妖精』は自然の持つ美しさや優しいさや温かさを、『木樵の合唱』は日本の自然と切り結びながら生き抜く木樵たちの素朴さや力強さや哀愁を、それぞれ表現し、作品が訴えたい自然と人とのあるべき関係をより浮き出

させ、色づける役割を果たしていました。

このうち『森の妖精』は、村民の敗訴に次ぐ敗訴で救いの見えない展開に、綾羽氏が原作にはない村の少女を登場させ、自然讃歌（朝の光への感謝と夕べの祈り）として歌わせたもので、そこには、紆余曲折はあるとしても人類は最後には必ず明るい未来を創出できるといつ、綾羽さんの強い願望が託されているようにでした。

また彦兵衛が石上との別々に大音声で唄い上げた民謡『南部木挽唄』には、生業の場となった右手の山林への愛着や木樵の職への誇りと共に、時代に流されゆく仕事人の何ともいえない哀感が滲んでいました。

◆ いかに生きるか問いかける

全体として、テロや紛争、グローバル化やTPPによつて、民族や宗教や貧富を隔てる壁がますます高く厚く築かれていく現代の地球にあつて、私たちは何を求め、いかに生きるべきかを根底から問いかける舞台となっていました。時宜に適った題材やテーマで人生や社会を見つめ直してもらつたことをモットーとする同一座の面目躍如たる公演でした。

演劇ガイド

● あんがいがおまる一座『雨月物語』 波除のフ

リースヘース「石灰倉庫」を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあんがいがおまる一座のスタジオ公演。「あなたを異世界にひき込む極上の時間が待っている」をキャッチコピーにした好評の朗読シリーズ『怪談を食す』の第四回。面白く哀しい上田秋成（あきなり）江戸後期の国学者・文学者の名作怪談『雨月物語』から七篇を、あんがいがおまる座長の演出、八上和裕（やがみひろ）さんの音響照明でコッシー（こっしー）原本（もと）さん、あんがいがおまるさん、八上祐子（やがみすけこ）さんが朗読。①二月二十日（土）十四時から『巻之二 白筆』『巻之二 浅茅が宿』②同日十五時から『巻之二 菊化の約』『巻之二 夢應の鯉魚』③二月二十一日（日）十三時から『巻之三 佛法僧 吉備津の釜』④同日十四時四十分から『巻之四 蛇性の姪』⑤同日十八時から『巻之五 青頭巾 貧僧論』。料金は①～⑤各一枠五百円、二十日全日 千八百円（前売 一千五百円）、二十一日全日 千五百円（前売 一千八百円）。詳細問い合わせ・申し込みは会場の

石灰倉庫（波除ハ・五・一ハ、JR井田駅から国道四二号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。 ☎六五八一・〇六六四、FAX六五八一・二六七〇、チケット専用フリーダイヤル〇二〇・三三四一・三九、Eメール theater@sekitanosouko.com、ホームページ <http://www.sekititanosouko.com>）へ。

● 井田町ORC200生涯学習センター『冬休みでもOH！笑い塾』参加者募集 子供たちによる子供たちのための喜劇ワークショップ＆発表。大阪市出身の放送作家・砂川一茂（なすけいち茂）さんが「人を笑わせ、自分も元気に」「喜劇はチームワークと「コミュニケーションやで」と喜劇のコツを優しく楽しく伝授。土 月 二十五日（金）、二十八日（土）の十四時～十八時と二十七日（日）十時～十五時の全三回（最終日はリハーサルと十四時から発表会）。対象は小学生以上（三日間全て参加できる人。大人の同伴参加も歓迎）。参加費千三百円（保険・資料代込）。先着三十名（定員に達し次第締め切り）。 ☎六五七七・一四一〇。

ライブガイド

● 八幡屋出身のロックドラマー 桐田勝治（きりたかつし）さん 一月三十一日（日）十八時から江坂ミューズ（地下鉄江坂駅⑧二分、 ☎六三八七・〇二〇三）でガーゴイルのワンマンライブに出演予定。

● 三先のフォーク歌手、ペドロ上村（かみむら）さん 毎月第一・三木曜二十時ザ・セラ（ ☎六二二一・六四三七）▽毎月第一火曜二十時半ロージー（ ☎六二二三・三九九九）▽毎月第三火曜二十時かつおの遊び場（ ☎〇九〇・五八八一・七〇二五）。

● 市岡元町の音楽ユニット「花☆キャラ」CD『マルグリータとトマトパスタ』あなたらしくあたらしく『好評』HPは「花☆キャラ」で検索。



→演奏する花☆キャラのニッシン（右）とカオリン

喜び哀しみを歌う

松浦由美子さんらシャンソン競演



人生の喜びや哀しみを歌に託して。市岡在住のシャンソン歌手・松浦由美子さんらが十月四日(日)午後、天王寺区のたかつガーデンで『午後のシャンソン』と題する定例ライブを開催、数十人の音楽ファンで活況を呈しました。松浦さん主宰の企画黒猫カットネロ(天王寺区)が主催する「カットネロ シャンソン コレクション」の十五回目。ピアノリストの藤田稔さんが構成とピアノ。

♪ エディット・ピアフを熱唱

ライブには関西を中心に活動する新旧の男女シャンソン歌手八人が出演。このうちトップとラストを飾った松浦さんは、持ち味の柔らかで温かく深みのあるアルトで、恋人を取り上げないでと神に哀願する『私の神様』、戦場へ行ったアコーデオン弾きの帰りを待つ『アコーデオン弾き』、周囲に恋を翻弄される『群衆』、全てを忘れて人生をゼロから始める『水に流して』の四曲(全てエディット・ピアフ歌唱)を熱唱、深い表現力で聴衆の心を揺さぶりました。

♪ 熱く個性ある歌いっぱい

他の歌手もそれぞれ熱く個性ある歌いっぱい

で、幸せだった愛の日々を振り返る『パフ色の人生』(大西進一さん)、逢瀬の切なさを嘆く『夜明けのタンゴ』(船本真由子さん)、トロシマ・ナガサキの悲劇を伝える『明日への伝言』(小原秀子さん)、恋の辛さをぶつけた『恋心』(富永将行さん)、戦争の無意味さを告発する『死んだ男の残したものは』(吉元紀美子さん)などを次々と披露。フィナーレはバリの太通りでの素敵な出合いを陽気に歌い上げたシャンソンの定番『オー・シャンゼリゼ』を会場も一体となつて大合唱、高揚のうちに幕を閉じました。

♪ 美しかったピアノ伴奏

全体を通じて藤田さんのピアノ伴奏が一人一人の歌唱と絶妙に絡み合いながら、ある時はきらりと輝く宝石のように、ある時はゆったりと揺蕩つ波のように、それぞれの曲想を美しく包み上げていました。

なお、松浦さんは社会派ミュージシャンとして『平和』『環境』『人権』などのテーマを掲げ、天王寺区の音楽喫茶カットネロを拠点に旺盛な演奏活動を展開しています。「みなとカルチャ―」(四十九番)にカットネロの催し案内。

→人生の喜び哀しみを歌い上げた「午後のシャンソン」
→十月四日(写真)は『私の神様』を歌う松浦由美子さん、ピアノは藤田稔さん

みなと

人生

劇場

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがつづる「当地ドラマ」第八弾は、田中住の九十代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おしん」。

こううんばし そら

幸運橋の空 (十二)

(前巻まで) デイサービスに通う久美子は次男の勤めで回想録を残すことになった。――大正十一年、六人兄弟姉妹の長女として浪速区に生まれた久美子は、博打に目がない父に苦労させられながら、奉公の連続で家族を助けた。引越先の港区でも三年間の子守奉公。十三歳でようやく家族と合流。母の営む海産物店で一家を支えた。戦火拡大する昭和十七年暮れ、近所の船大工の次男・大東正義と見合い結婚。新婚の感慨も束の間、夫は召集され南方へ。久美子は戦地へ慰問袋を送ったりしながら便りを待った――

●戦時中、お金には困らず

ありがたいことに義父母は近くの安治川造船の株を以前から持っていて、夫の出征後、その名義を久美子に変えてくれたので毎月九十円の配当金が入り、一階に間借りしている橋本夫婦からの家賃(月十七円)もあった。おかげで戦時中、金に苦労することはなかった。

それでも小さい頃から母と共に食べることに必死で、金のありがたみを身に染みて感じていた久美子にとって、金はいくらあってもあり過ぎるということとはなかった。それで、それらの金はいつも胴巻きに入れ、体から離さなかった。

●最初の便りに感無量

最初の「軍事郵便」が届いたのは出征して二カ月ほどたった昭和十八年十二月三十日、ちよつど皆で正月の餅を擡いでいた時だった。

「拝啓

■■■■■■■■■■ 永らくく無沙汰いたしました。

■ 壮健にてお暮らしいのことと思つ。僕も■■■■■■■■■■ 無事で■■■■■■■■■■ 元気で軍務に精励いたしておるから安心してくれ。次に■■■■■■■■■■ から送った金百五十円受け取ったか。当地は雨が多く、気候は内地の

六、七月頃である。果実は色々なのがたくさんある。変わったことが多々あるが、書けないからこの次にする。お前も僕の考え通り動きに行っていることと思つが、暇あるついでに西親様の面倒よろしく頼む。それから商売用の書類は父上に渡してくれたと思つが、父上に分からない所があるから、よく見てあげてくれ。……お前も精々身体に気をつけて、西親様にもお身体に留意されてお暮らされるようお願いつてくれ。……現在我々は左記並びに表記の所にいる寒さに向かう折から、お前から皆々様によりしく伝えてくれ。まずはこれにて失礼する。さようなら。スマトラ派遣 岡一〇四八二部隊

瀬戸隊 大東正義

瀬戸小隊長の検閲印があり、四力所ほど墨で黒く塗り潰されていたが、紛れもない夫の筆跡だった。狭い葉書の裏面にその几帳面な文字がびっしり並んでいるのを見た時の気持ちを、久美子はいつも言葉にできなかった。

ようやく夫の無事と赴任先が分かった久美子らは、こちらからも手紙や葉書を出すようになった。終戦までに夫からは三十通以上の軍事郵

便が届いたが、そのどれにも、久美子や義父母や久美子の父母の健康を気遣う言葉に続けて「へねねも父上母上の面倒をよろしく頼む」との託けの言葉が記されてあった。また現地で日避けの白い布の付いた戦闘帽を被った自身の写真を送ってゐることもあった。久美子はそれらをいつも横袋に入れて持ち歩いた。

● 戦地からの最後の便り

昭和十九年に入ると、空襲に備えて建物疎開（延焼を防ぐため建物を除去する措置）が始まった。夏にはサイパン島、ニラン島、グアム島の日本軍は相次ぎ玉砕。それらの島が米軍の手に落ちるや、本土空襲が現実のものとなった。同年十月に沖縄、十一月に東京、名古屋をB29が襲った。町内の防空演習はいよいよ切迫感をもって行なわれるようになった。

「つした戦況の悪化を見て久美子の父は、彼女の嫁入り道員であった布団や着物を少しずつ風呂敷に包んで、関西汽船で母の里の愛媛県小池（宇和島の近く）へ預けに行ってくれた。

昭和二十年に入ると、遂に大阪への空襲が始まった。軍港だった大阪港を封鎖するため、湾

内に大量の機雷が投げ落とされた。迎え撃つ日本機は七千は位までしか上昇できず、ゆづゆつと二万は上空を飛ぶB29の敵ではなかった。

一月十九日深夜にはB29一機が港区に飛来し、築港の市電車庫周辺（現在の港晴から中央体育館あたり）に十八発の爆弾を投下。死者三人、家屋全壊四十五戸などの被害が出た。

その少し後だったか、夫からの三十通目への便りが届いた。

「じばらへ無沙汰している。その後、お前も達者で留守をしっかりと守っている田、何よりと喜んでゐる。安心してくれ。次に、先日、便り一通でも受け取り、嬉しく読む。お父上はじめお前たち一同も昭和二十年の良き新春を迎えたことと思う。俺もインド洋を目の前に椰子繁る〇〇（原文のまま）において新春を無事迎えることができた。今年こそはと士気旺盛で米英打倒に前年よりなお一層の奮闘を祈る。終わりに、お前の写真を送ってね。前に出した便りに部隊が変わったと書いたが、また表記の名に変わったから、そこへ送るよつ。では元気で暮らせ。スマトラ派遣 富四〇七二部隊

唐澤部隊 坂本隊 大東正義」

結局、これが戦地からの最後の便りになった。

● 三月十二日の空襲

三月十二日深夜。大阪港関門方面から二百七十四機のB29の大編隊が進入した。「警戒警報」が「空襲警報」に変わり、「敵機来襲」「敵機来襲」の声が拡声器から響くと、もう上空をB29の真っ黒い機影が覆っていた。ゴッ、ゴッ、ゴッ、ゴッと低く繰り返す、トロッ」を押す時のような、何ともいえない不気味な爆音が、空全体から家々を押さえ付けるように響いた。B29は港区夕屈あたりから西区・浪速区など大阪市中心部にかけて、油脂焼夷弾を豪雨のように注いだ。まるで港区の真ん中に線を引いたかのように、久美子たちのいた石田神楽町、田中元町あたりから築港までの西半分には焼夷弾を落とさず、市国元町など東側にはかり落としてるのが見えた。結局、焼け野原になったのは夕屈以東、つまり港区の東半分だった。この空襲による港区の被害は「約七万五千人が罹災、全焼一万余戸、死者四百余人」（大阪府警察）というものだった。（つづく）

平和のため

戦争体験

語り継ごう

もり しげあき

森 茂明さん(九〇) 八幡屋在住 ②



前身あらすじ 大正十四年、港区八幡屋に生まれた私は軍国少年として航空兵にあこがれ、高等小学校卒業後の工員時代、パイロット養成所に合格。厳しい訓練も苦にならず、昭和十九年三月、操縦士と航空士の資格を取得した。

京都からジャワ、北朝鮮へ

敗戦に衝撃、決死の帰還

「つうしてあこがれの航空兵になれた私は、すぐに京都の陸軍部隊へ送り込まれました。そこで『等兵』としてさらに厳しい訓練を受けながら約半年間を過ごしたのち、たしか九月ごろ、当時まだ日本の支配圏にあったジャワ島（インドネシア最大の島で、同国人口の半分以上が居住）への派遣が命ぜられました。」

◆ ジャワで戦況の厳しさを知る

小型の爆撃機に、鳥取や九州などの航空兵養成所の出身者はかり十人ほどが乗り込み、米軍機の攻撃をかくぐりながら、台湾、フィリピン、ボルネオを越え、着いたのは大都市ジャカルタに近い飛行場でした。

このジャワでは、途中、シンガポールへ移動したりしながら、半年ほど滞在しましたが、幸い私たちの航空部隊には戦闘らしい戦闘もなく、ほとんどが訓練の毎日でした。食糧も充分すぎるくらいありました。しかし、出撃した地下部

「京都の陸軍部隊時代」昭和十九年秋頃



隊が途中でやられたり、予定通り戻ってこなかったりするのを知って、「これは相当厳しいな」「地上部隊はさぞ苦しいやろ」と戦況を不安視したものでした。それでも、神国日本の勝利を絶対視していた私の胸に「日本が負ける」という予想はかけらもありませんでした。

◆ 北朝鮮の宣徳へ移動

そうして翌昭和二十（一九四五年）春頃、今度は北朝鮮の宣徳^{せんてく}への派遣命令が下され、我々はジャワへ来た時と同じ小型爆撃機に十一人ほどが乗り込みました。この頃には日本の制空権は本土周辺でさえ既に失われていたので、この長距離移動はまさに命がけでしたが、幸い米軍機の攻撃を受けることはありませんでした。

宣徳は満州(中国東北部)に近い町で、その飛行場が新しい勤務地でした。が、ここでも我々航空部隊に戦闘らしい戦闘はなく、空襲に見舞われることもなく、食糧も充分あり、またこの頃には私は下士官(軍曹)に昇進していたので訓練に追われることもありませんでした。そして結局、ここでも終戦を迎えたのです。

◆ 玉音放送に自分も喜んだ

八月十五日正午。教室のような所に十数人が集められて玉音放送を聴きました。雑音が多い上に、天皇陛下独特の抑揚ある音声はとても聴き取りにくかったのですが、その悲痛な調子から日本の敗北が分かりました。

敗戦(無条件降伏)の衝撃は言葉にできないほどでした。厳しい戦況でも神国・日本には必ず神風など神の助けがあるや固く信じて、その勝利のために生き延びてきた私は、ひとりの校庭へ飛び込む「じむからうひつて生きていつたらいいの」「自分自身でいつ始末をつけたらいいの」「このまま生きていつていいの」「自決すべきではないのか」など思考を続けました。

◆ 「敵に降参」(内地へ)

↑ 北朝鮮の宣徳飛行場時代Ⅱ昭和二十年春



そんな我々に、同じ北朝鮮の新義州(満州との境界・鴨緑江沿いの町)へ「集合せよ」つまり「武装解除して捕虜になれ」との指令が出たのは、その数日後でした。しかし私たちの航空部隊では誰からともなく「もう戦争に負けたんや。上の言うことを聞く必要はないん」とちがうか」という疑問の聲が上がリ、それは次第にみんなの思いとなって広がり、やがて隊長である二十七・八歳の准尉(少尉の下)が発した「自分たちの飛行機で北(新義州)ではなく南(内地)へ飛ばす」との声に従うことになったのです。

◆ 日本の海岸に不時着

同月二十日の深夜、私たち十一人は暗闇の宣徳飛行場に集結、准尉を機長とし、私を副操縦士として、ジャワから乗ってきたと同じ小型爆撃機に乗り込み、南へ進路をとって飛び立ち

ました。

一時間ほどの飛行のち、機体は日本海を越え、懐かしい日本の上空に差し掛かりました。下には山陰地方の海岸が広がっているはずですが、機体を大きく旋回させながら次第に低空飛行に移り、真つ暗な中で着陸できそうな場所を、准尉と私は目を皿のようにして探しました。が、あたりに飛行場はなく、砂浜が続くばかり。いざ着陸態勢をとり、地面が近づくと、准尉は「あかん!」と叫んで機を上昇させ、また別の場所を探します。そうして下降と上昇を繰り返すと数回、ようやく着陸可能な幅と長さを持つ砂浜が見つかりました。「今度こそ!」と准尉は操縦桿を慎重に操りながら、その地点めざして徐々に高度を下げます。白い砂が闇の底から浮き上がり、皆の顔に緊張が走ります。やがて機体にドンと衝撃が走り、ガガガッと引きずるような音が数秒つづいて、飛行機は停止しました。「やったぞ!」と准尉。皆の顔に安堵が広がります。脚を出さず、地面を胴体で這うながら着陸する、危険極まりない「胴体着陸」に成功した瞬間でした。

(つづ)

入魂の手技が一堂に

老人福祉センターで作品展



「一心込めた力作の数々に『美しいね』『見事やわ』
とため息がもれた『港区老人福祉センター作
品展示会』（写真は編物や生花のコーナー）」

「綺麗やね『上手やわ』」。港区老人福祉セン
ター（夕凧、宇津原正章館長）主催の「作品展示
会」が十一月十、十二日に同センターで催され、
入魂の手技の数々に来場者の溜息がもれました。
展示されたのは墨絵、折紙、バルーンアート、
編物、習字、俳句、生花、フラワーアレンジメ
ント、七宝焼きなど、この一年間に同センター
の教室・同好会・講座や個人で制作された百数十
点。どの作品にも作者の想いが籠り、持てる技
が注がれ、二つとない個性に溢れていました。
会期中には出品者をはじめ、同センター利用
者を中心に、大勢の区民が鑑賞に訪れましたが、
そのうちの何人かに感想を訊いてみました。

◆「墨絵はひと息」と藤原さん

このうち「墨絵同好会」会員として、一匹の
出目金を描いた『金魚』と、雪山を背にした教
会風建物を描いた『風景』を出品したのは藤原
ふみ子さん（又正在住）。「墨絵を続けて二十
五年前からは港区民センターで毛少華先生中
国人書家・画家に教わりながら、こここの同好会
ではボランティアでお手伝いしています。この
作品展に出品するのは四回目です。『風景』は写

「金魚の爽やかさと墨絵の枯淡な趣が感じられ
た藤原ふみ子さんの『金魚』①と、食物への
温かな眼差しや絵を愛する気持ちが伝わって
きた青野啓子さんの墨絵『れんこん』②



真を元に墨で描き、顔彩で色付けしました。『金
魚』は片岡鶴太郎さんの作品をヒントに描きま
したが、金魚の可愛さと墨絵独特の渋さを感じ
て頂けたら嬉しいです。墨絵はひと息で描くの
がポイント。濃淡やばかしがうまくできるよう
になるには二十年はかかるでしょう。いい作品
ができた時は自分でもほほえみます（笑）」と
話していました。

藤原作品のうち、特に、ひと息で描き上げた
と思われる『金魚』からは、水の清澄さや金
魚の自由さ、それに墨絵ならではの枯淡な趣

が感じられました。

◆「俳画風に描いた」と青野さん

同じく「墨絵同好会」会員として静物を題材にした『くまのぬいぐるみ』『れんこん』を出品したのは青野啓子さん(八二)＝又風在住。二年前に鷹屋川から引越して来てから、この同好会で先生や藤原さん(先述)に墨絵を教わっています。小さい時から絵が大好きで、よく貼り出されました。『れんこん』は、俳画の上手な親戚の人の作品を見て『いいなあ』と思ったので、NHK通信講座のテキストも参考にしながら俳画風に描いてみました」と話していました。

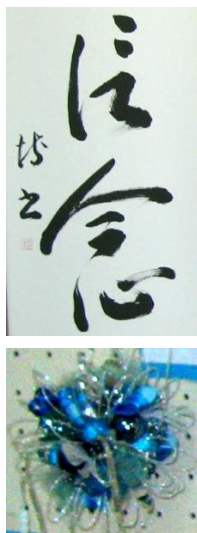


→クリーム地の色柄や丹念に編み込まれた模様
に秋の落ち着きと柔らかさが感じられた辻井
美好さんのベスト⑤と、貝がらの色や光沢が
美しかった中沢英子さんの七宝焼き⑥

←勢いある筆致や程よい字の崩し方や安定感あ
るバランスに人生が感じられた平井博さんの

書『信念』④と、青系で爽やかにまとめた岡

純子さんのフラワーアレンジメント作品⑦



青野作品のうち、特に簡素な筆づかいと色合
いが特徴の『れんこん』からは、食べ物への温
かな眼差し、それに絵画を心から愛する気持ち
が伝わってきました。

◆「秋らしい色柄で」と辻井さん

また「編物教室」の生徒としてベストとボトル
サックを出品したのは辻井美好さん(八二)＝ハ
幡屋在住。「藤島芳子先生や横田さん(先輩)に教
わりながら、この教室で十年ほど続けています。

このベストは、秋らしい色柄の毛糸を使って一
週間ほどで仕上げました。編み物は小さい時か
ら大好き。出来上がった時の嬉しさ、自分で身
に着ける時の喜びは何とも言えません。(歳を
とって)目や耳が不自由になりましたが、これか

らも無理せず気楽に続けていきたいと思ってい
ます」と話していました。

辻井作品のうち、特にベストは、クリーム地
に黄と橙を散りばめた素材の色柄や、丹念に
編み込まれた細かな幾何学模様が、秋の落ち着
きと柔らかさを感じさせてくれました。

◆「未熟でも楽しみなから」と平井さん

また「習字同好会」会員として『信念』を出
品したのは平井博さん(八四)＝池島在住。三
回目の出品です。「この言葉が前から好きでした。
五く六枚練習してから仕上げました。書道を始
めてまだ日が浅く、他の方の作品に比べると未
熟ですが、これからも楽しみながら続けていき



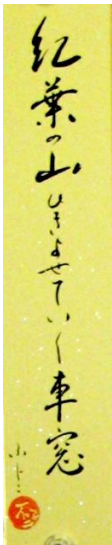
→夕空を背景に柿の実と葉を重画風に貼り合わ
せた西川房子さんの折紙作品『柿』⑧と、秋
の満月を背景に桔梗などをシルエットの配
した田島隆子さんの折紙作品『ききょう』

「胡蝶蘭や薔薇の組み合わせが自由さを感じさせた川勝允恵さんの生花①」と、寒桜や大輪菊などをバランスよく配して秋から冬の寒気を感じさせた平井孝子さんの生花②



たいと思っています」と話していました。

平井作品『信念』については、その勢いある筆致からはこの言葉への作者の思い入れの強さが、ほどよい字体のくすし方や下の字をやや大きめにしつつ安定感ある構成からは老境に入つてのおだやかな人生観が、それぞれ感じられ



「旅中の秋景を流麗な筆致でしたためた不二子さんの俳句「紅葉の山ひきよせていく車窓」

ました。

◆「折紙」「俳句」「生花」などにも注目

このほか「七宝焼き」では買からにガラス質の釉薬を焼き付けて美しい色と光沢を帯びさせた中沢英子さんの作品が、「フワフワアレンジメント」では玉やりボンを組み合わせて青糸で爽やかにまとめた岡純子さんの作品が、「折紙」では夕空を背景に柿の実や葉を童画風に貼り合わせた西川房子さんの『柿』や、秋の満月をバックに桔梗などの草花をシルエットの配した田島隆子さんの『ききょう』などの作品が、それぞれ注目を集めていました。

また「生花」では胡蝶蘭や薔薇の大胆な組み合わせに自由さや華やかさが感じられた川勝允恵さんの作品や、寒桜や大輪菊などをバランスよく配して秋から冬の寒気を感じさせた平井孝子さんの作品など、「俳句」では旅中に切り取った秋景を流麗な筆致でしたためた「紅葉の山ひきよせていく車窓」「不二子さんなどの作品に、「バルーンアート」では色とりどりの風船を組み合わせて鼠をアニメ風に表現した宇都宮春美さんの作品などに、それぞれ

「色とりどりの風船を組み合わせて鼠をアニメ風に表現した宇都宮春美さんのバルーンアート①」と、秋の住宅街を淡色の和紙で表現した小田典子さんのちぎり絵『秋の景色』②



れ関心が集まっていました。

さらに「個人作品」では秋色に染まる住宅街を淡色の和紙で表現した小田典子さんのちぎり絵『秋の景色』や、「雁の列は字のように秋空の雲に写し出される」との説明書きを添えた森本静さんの流麗な行書『雁字寫秋雲』などの作品が、それぞれ注目を集めていました。



「雁の列は字のように秋空の雲に写し出される」と説明を添えた森本静さんの流麗な行書

文化的イベント案内

みなとカルチャ

● 港図書館

① 年末年始の休館＝十二月二十八日(月)～一月四日(月)。土曜 十八日午後五時～一月四日午前九時は返却ポスト利用不可
② おたのしみ会＝毎週水曜日(十二月 二十二日は祝日のため休み)十五時半～十八時に絵本コーナーで。幼児を対象に絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアターなど。申込不要③ あかちゃんのおたのしみ会＝毎月第一金曜日(一月は休み)次回は 月五日(日)の十一時～十一時半に絵本コーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。毎週のおたのしみ会より赤ちゃん向け。申込不要④ 図書展示＝あなたにこの本を！展＝一月三十一日(日)まで開催中▽ ☎六五七六・一三三六。

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「Meet the Classic Voice. 32」 同楽

団の首席指揮者・藤岡幸夫さんがクラシック&オーケストラのライブ感を伝える人気シリーズの三十二回目。「華麗なるニューイヤークンサー

← 指揮を担当する関西フィル首席指揮者・藤岡幸夫さん(©SHINYAMAGISHI)



ト～マイ・フエイヴァリッツ…：幸田浩子この魅惑のステージ」と題し、至純のソプラノ・ヴォイスを自由自在に操るミューズ、幸田浩子さんを迎えて新年にふさわしい人気曲を。演奏曲目(※印は幸田さんがソプラノは、① アンダーソン：舞踏会の美女② ヨハン・シュトラウス2世：ワルツ「春の声」※③ コゼフ・シュトラウス：ワ



ソプラノを担当する幸田浩子さん

ツ「天体の音楽」④ ヨハン・シュトラウス2世：「伯爵様、あなたのようなお方は」(喜歌劇「つつもり」より)※⑥ リスト：ハンガリー狂詩曲第2番⑦ ヨハン・シュトラウス2世：ボルカ「観光列車」(マスカード・ニアヴェエマリア(原曲：歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲)※⑧ ヴェルディ：歌劇「椿姫」第3幕への前奏曲⑨ ヴェルディ：ああ、そは彼の人かく花から花へ(「歌劇「椿姫」より)※⑩ ファリヤ：「三角帽子」第2組曲。一月二十五日(月)十九時からいずみホール(JR環状線・大阪城公園駅)歩三分、JR環状線・東西線「京橋駅」南口歩八分、地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク駅」歩五分)で。一階席四千円、一階席三千円、学生席 千円(十八歳以下、一階席のみ)。全席指定消費税込。無料託児サービスあり(先着 千名、申込締切二月十一日)。 ☎六五七七・一三八一。

● 井天町ORC200生涯学習センター「クリスマスコンサート2015」 旧・井天町市民

学習センター時代から毎クリスマス季に好評だった関西フィルハーモニー管弦楽団の弦楽五重奏メンバー(ヴァイオリン二人、ヴィオラ、チェ

ロ、コントバス「哲学の道」フロムナード・コンサートの仲間たち」による演奏会。第一部は『弦楽器のための名曲特選』と題してモーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」などを。第二部は『映画音楽名曲特選』と題して「アービッド・ハウエル編曲による」風と共に去りぬ「フリームライト」などを。十一月二十一日(月)十五時半と十九時の二回、講堂で。入場料千七百円(前売千五百円)、小中学生九百円。定員各回四百五十名。小学生以上が対象。 ☎ 八五七七・二四一〇。

● 弁太町オーロラ生涯学習センター・弁太シネマ倶楽部『地上最大のショウ』 「心に残る名作映画を低料金で多くの市民にと旧・弁太町市民学習センター時代に企画され、人気を博



→ 弁太シネマ倶楽部『地上最大のショウ』から

したイベントの再開第九回、通算第四十二回。

―世界最大のサーカス団の座長と花形軽業師ホリ―は恋人同士だったが、利益向上を図る座長は新しく空中曲芸の名人セバステアンと契約。ホリ―は対抗心をき出でて危険な技にも挑むが、対抗意識はやがて恋へと変わり。アカデミー賞作品賞・原案賞 受賞。監督はセル・B・デミル。出演はベティ・ハットン、コーネル・ウィルド、チャールトン・ヘストン他。五年来、カラ、一五五分。一月十八日(土)十時と十四時から講堂で。料金は一人一回八百円(前売五百円)。定員は各回先着百名。 ☎ 八五七七・二四一〇。

● リビート山&Maguma 年忘れ「コンサート」 『サッポロ黒ラベルの歌』など温かく

ユーモラスなCMソングやメッセージソングでおなじみのリビート山さんと息子のシンガーソングライター Maguma さんが十二月十七日(日)に恒例の年末演奏会。第一部は十三時半からリビート山中『愛の歌コンサート』。第二部は十五時半から Maguma 『バースデーラブ』。第二部は十七時半から二人と共に「パーティ」。各回 千円(組み合わせ割引チケットあり)

→ 石炭倉庫「年忘れコンサート」に出演するリビート山さん①と Maguma さん②



り。問い合わせ・申し込みは会場の石炭倉庫(波除六・五・一八、JR 弁太町駅から国道四三号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。 ☎ 六五八一・〇六六四、FAX 六五八一・二六七〇、チケット専用フリーダイヤル〇二〇・三三四・一三九、Email theather@seekittansouko.com)へ。

● ねじやらしのシヤンテ☆カフェ 懐かしい歌に老いも若きも声を合わせる月例イベント。毎月第四土曜十四時から港近隣センター(八幡屋一・四・二〇)で。リクエスト中心に二時間。新オリジナル歌集頒布中。参加費千円(税込)。十二月は十一日で既に終り、一月は二十三日。

←過去の「ねこじやらしのシャンテ☆カフェ」



問合せはねこじやらし音楽事務所(井天四一
一・一一・三〇二・八五五・六八八)へ。

●ガットネロ 市岡在住のシャンソン歌手・松

ゆみこ

浦田美子さん主宰の音楽喫茶。毎月多彩な企画

▽ガットネロ実験劇場第十四回「エディット・ピ

アフ」十二月二十日(日)十九時から吹田メイ

シアター小ホールで。生誕百年のピアフのシャ

ンソンの名曲と人形のコラボ。出演は松浦由美

子さん(歌)、藤田稔さん(ピアノ)、西島

かずこ

加寿子・高平和子さん(人形劇団クラレテ。一

般三千円)当日三千五百円▽HAMORR-

BEのつた★

カフェ第二十五回十二月十三

日(水祝)十一時十五時二十四日(木)十五時

二十五日(金)十一時十五時の五回(各六十分)。

←ガットネロを主宰する松浦由美子さん(上)と

「うた☆カフェ」出演のHAMORR・BE(下)



「いろ・色・彩でつづる日本の歌」をテーマに若手

テノールデュオ(中川公志&小原有貴さん)が

日本の懐かしい歌を。会費各 千五百円(一飲物

付・要予約)▽クラシックカフェ第八十四回一

月八日(金)十九時から。「新春の華麗なるロシア

のピアノサウンド」と題して宮崎剛さん(ピア

ノ)がプロコフィエフ、ムソルグスキーなど。会

費 千円(定員十五名、要予約)▽詳細はガット

ネロ(天主寺区上本町六・一一・三七)地下鉄谷町

九丁自駅⑨出口、八六七七・〇〇二へ。

●ギャラリーはたなか「ZEN GARDEN

旗谷吉員 絵画展」 土月二十日(日)まで

S 旗谷吉員 絵画展

開催中。十一時十九時(最終日は十七時まで。

十八日(水)は休廊。磯路二・一一・五(港区役所

向かい)。八五七二・五九八七。

●ギャラリー&かふえ風庵「にじいろの灯り展」

鍛冶師の河上知明さん・真琴さん親子(石川県

在住)とキャンドルアーティスト・さとうたかみ

さん(東京都在住)による「コラボ展。知明さんは

「あかりとびびり」をテーマに、真琴さんは「日々

に潤いを」「インテリアに洒落たアクセント

を」「住まいをキリリと魅力的に」を心がけて

燭台制作。さとうさんは「本来の自分に還る」

をテーマに独自のスタイルでキャンドル制作。

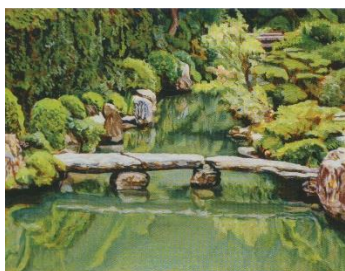
十二月十八日(月)まで開催中。風庵は南市岡

三・一一・〇〇(繁栄商店街内)、八四九八・五

九八・十時〜十八時開館(日曜定休)。

→ギャラリーはたなか「旗谷吉員絵画展」の作品

例(上)、風庵「にじいろの灯り展」の展示(下)



ひとくちPR

(二行)税込二〇〇円、写真は別料金相談

● **そろばん学習で子どもが変わる・** 右脳活性化
見直される効用。そろばん教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」も強めよう。森友総合教室 **検索** (夕四 一三三七三津神社西側 五五七二一六八七七)。

● **放課後・春夏冬休みは学童保育へ** 入所児童募集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇三三

四(西原)か 五五七二一六八四三あおぞら学童。

● **介護のことはお任せ** ①介護や老いの相談

②介護の手続き代行③デイサービスは送迎付で入浴・昼食・手芸など④訪問介護は買物・掃除洗濯など。NPOみなと同ケアセンター(南市岡三・六二一六、五五八三・四八八〇)。

● **あなたのふとんが生まれ変わる** 綿も羽毛も

も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。シングル掛敷ふとん二万円。ふとん館ひらのや(南市岡三・二一八 繁栄商店街東入口フリーダイヤル〇二〇・四二四九・五五)。

● **おしゃれな着いつばい** 神戸メーカー直送お

出かけ着から普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブティック・ミント (八幡屋一四・八、入母公園前、大阪信金横十、十八時営業、日月定休)。

● **新しい作業所でお仕事しませんか** 障害者

手帳を持ち一般企業で働くのが困難な方。喫茶又は軽作業。就労支援B型作業所・相談支援事業所わたぼうし(夕四 一・八・一〇、五五七六・〇一〇〇、FAX五五七六・〇一〇三)。

● **ボクササイズでシェイプアップ** 女性も小

中・高生も楽しく練習。月会費八千円(三カ月期限十枚綴りチケット八千円)。入会金二万円を只今半額。練習日は月・水金の十九時半〜二十一時半。港ボクシングジムは三先一・三・九。

● **囲碁クラブ** 毎月第一・四土曜の午後二〜五

時に港近隣センター(八幡屋一・四・二〇)会議室で。参加費一回五百円。家族的雰囲気。五〇九〇・二二九八・八四四二瀬戸。

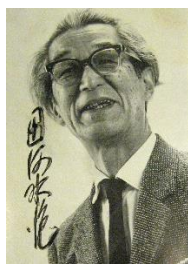
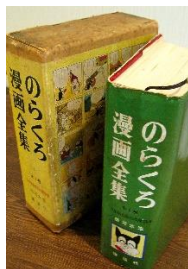
● **何でも書きます、まとめてます** 手紙案内報

告・宣伝・司会などの文案。自分史・社史・団体史などの聞き書き。新聞・会報・書籍などの取材・編集。ホームページ作成・記帳代行など。五五七二・四八三六 港新聞・飯田編集事務所。

ひとくち伝言板

● **「のびる漫画全集」買って下さい** 戦前爆

発的人気を博した田川水泡の名作の全一卷全集。サイン入り写真付。四十年前に四千五百円で購入も冒険治療費捻出のため高値買い受け希望。五〇九〇・八二四一・二六四二 吉村公一。



読者プレゼント

※いずれもハガキに当月の感想とプレゼント名を書いて二十日必着で港新聞へ。

● **関西フィルミート・ザ・クラシック2**

(みなとカルチャー)招待券をハア一組に。

● **弁天シネマ倶楽部『地上最大のショウ』** (み

なとカルチャー)招待券をハア一組に。

● **石炭倉庫「リピート山中&Magnum」** (サ

ート) (みなとカルチャー)招待券ハア一組に。

● **ガットネロ実験劇場「エフィット・ピアフ」**

(みなとカルチャー)招待券をハア一組に。